

香港中文大學日本研究學系

2011-12 年度 日本大阪暑期日語研修課程



2012年6月10日(日)至6月19日(二)

• 目錄 •

I.	活動行程	3
II.	參加學生之訪問報告	
1.	石梵緬	4
2.	林志傑	8
3.	黃綽瑤	12
4.	歐德培	17
5.	司徒凱棊	22
6.	張慧儀	25
7.	姚禮安	29
8.	曹子奇	32
9.	林怡昆	35
10.	梁家儀	39
III.	相片	43

活動行程

		1	2	3	4	5
		9:00 – 9:50	10:00 – 10:50	11:00 – 11:50	13:20 – 14:10	14:20 – 15:10
Jun 10	Sun	Check-in				
Jun 11	Mon	Briefing session	Japanese-Language lesson		Japanese-Language lesson	
Jun 12	Tue	Japanese-Language lesson			Exchange party with University students	
Jun 13	Wed	Osaka orientation				
Jun 14	Thu	Japanese-Language lesson			Cultural experience (Japanese Drum)	
Jun 15	Fri	Japanese-Language lesson			Cultural experience (Kimono)	
Jun 16	Sat	Homestay				
Jun 17	Sun	Homestay				
Jun 18	Mon	Japanese-Language lesson			Presentation and Closing ceremony	
Jun 19	Tue	Check-out				

石梵緬

很幸運能以後補身份參加是次的暑期日語研修課程，這個研修課程真是十分多姿多彩，既有日語學習課堂和文化體驗可以學習日語和了解日本文化，也有 Home stay 和大學生交流可以感受和更深入了解日本人的生活與社會，還有大阪戶外定向可以到大阪不同的地方遊覽，這次交流真的是一趟豐富且充實的旅程。交流前從未踏足過日本的我真的很期待很興奮，與此同時亦擔心自己是否能順利與日本人溝通。於是，在六月十日我帶著既興奮又擔憂的心情來到了日本。

國際交流基金關西國際研修中心

第一天到達關西國際機場便趕忙搭乘 JR 到りんくうタウン站再乘坐免費穿梭巴士到研修中心。在穿梭巴士上還有正在研修中心修讀日語的外國人，他們一上車便親切地打招呼，讓我感受到了研修中心和諧的氣氛，即使還未到研修中心也讓我開始很期待之後的生活。到達研修中心，接待處的職員細心交帶我們要注意的細節，知道我們還未吃晚餐還親切地向我們介紹附近的食肆，讓本來很徬徨的我們感到安心不少。在研修中心我們每人有各自的房間，房間設備一應俱全，簡直和酒店沒兩樣，而且在房間還能看到美麗的夜景，真的棒極了！我們十人剛好佔據了一整層，我們的樓層還有公用房間，能遙望關西國際機場，黃昏時還能欣賞到美麗的夕陽，在公共房間聊天和玩樂都是十分輕鬆寫意的。

第一天上課有研修中心的導覽環節，先生帶我們參觀研修中心的各項設施，我才發現研修中心麻雀雖小但五臟俱全。不但有食堂和圖書館這些基本設施，還有廚房、卡拉 O K 房和健身室，還可以租借自行車，真的是太方便了！使我不禁覺得住在研修中心只有十天真的太短了。

日本語課堂

是次研修課程的目的當然是日語學習。每天由早上九時開始直到下午五時都有課，一開始還會擔心長時間學習會很辛苦，不過除去了文化體驗、與大學生交流、大阪戶外定向和 Home stay 後，其實真正上課的時間並不多。課堂中最有趣的要數動漫日語，平日看動漫我也沒有很留意人物的用字，原來不同的人說話方式和用字都不同！研修中心的網頁有動漫日語的教學和小遊戲，製作十分認真，能讓我們從遊戲中學習，真的很有趣，而且回到香港之後也能繼續學習呢！除此之外，教授大阪腔的課堂亦十分有趣，之前只知道關東腔和關西腔有分別，但並不是很清楚其不同之處。大阪腔的課堂先生會用大阪腔讀出對話，對話中最有用的莫過於「高いなあ、まけて」這一句，因為購物的時候可以常常用到。同時，還有教授年青人用語，就像香港的潮語般，學習到日本人年青人的說話方式真的感到很新鮮呢！

在研修中心學習真的令我的日語聽講有了很大的進步。在香港上日語課先生不會只說日語，因此上課前還有點擔心會不會聽不明白先生說的內容，我們的老師魚住先生會遷就我們說慢一點，見我們不太明白便會寫出來或者畫圖，讓我們更明白她說的話。而且課堂包含很多發表環節，要在很短的時間內準備並向全班發表，最後一次發表還要在研修中心的先生面前發表。經過這麼多次的發表著實令我對於日語發表不再膽怯，而且有機會發表 3-5 分鐘確實是很好的鍛鍊。在港時日語口語訓練只是單單回答先生的問題，好像對於日語口語都沒有很多的練習。但在日本，每天每天逼著發表真的讓日語口語能力有很大程度的提升。

文化體驗

除了日語學習以外，研修課程也包含很多文化體驗活動，包括合氣柔術、落語和浴衣。這三項活動對我而言都非常新鮮，在文化體驗前我完全不知道合氣柔術和落語是甚麼，經過今次體驗讓我了解更多這兩種日本傳統文化。

學習合氣柔術時學習了很多熱身和拉筋的方法，還有受身和掙脫的方法，感覺有點像防狼術。合氣柔術很重視氣，只要用氣就可以擊倒對方。和先生練習時完全感受到氣的力量，要從先生手中掙脫是沒有可能成功的！合氣柔道的學習令我感受到了傳統武術的厲害之處。

而落語則是日語和英語並用類似棟篤笑的表演，先生教導我們扮進食鳥冬真的是十分有趣。先生播的短片也讓我對落語這個傳統文化的歷史與傳承有更深入的了解。

浴衣體驗則讓我們一嘗穿日本服飾的滋味，我們穿浴衣時都雞手鴨腳，只能任由先生為我們穿著和團圈來繫上腰帶，我想如果要自己穿浴衣的話實在太困難了。我們穿著浴衣在研修中心內四處拍照，竹林和盛放的紫陽花成了拍照熱點。大家穿著浴衣仍戴著眼鏡並拿著電話和相機真的很像穿越到古代的現代人呢！

與日本大學生交流

在研修的第二天我們和帝塚山学院大学的學生交流，我們先作簡單的發表介紹香港、香港中文大學、大學生的生活和中大的日語課程，讓他們對香港和中大有所了解。及後我們分為二人一組和帝塚山学院大学的學生作個別交流，他們都很細心的準備了很多話題，包括他們的一天生活等等，讓我們對他們的生活有更多的了解。及後他們答應我們的邀請一起到りんくうタウン吃晚飯，真的是很開心的一個晚上。從下午到晚上跟帝塚山学院大学的學生們談了很多不同的話題，真的是一次很好的文化交流。我們還交換了聯絡方式，希望在香港也繼續保持聯絡呢！



大阪戶外定向

日語研修並不單單局限在研修中心內，大阪戶外定向就是一個很好的體驗學習活動，讓我們自行計劃行程，參觀大阪市內新與舊的特色建築物或景點去了解日本歷史與發展。同時，在旅途上留意不懂的日文，加以學習。我們十人一共分為三組，分別為ショッピンググループ，文化グループ和リラックグループ。而我組リラックグループ一共有五人，大家都打算輕輕鬆鬆的遊覽大阪，所以事前決定好要去的景點只有天王寺動物園、大阪城天守閣、大阪くらし今昔館和空中庭園展望台而已。

我們的第一站是天王寺動物園，因為香港沒有動物園的關係，我們對於能看到各種各樣的動物都感到很興奮很期待！最開心是在動物園中看到北極熊和企鵝，當然還有很多猛獸，只是大部分都在睡覺，感覺失色不少。之後下一站去了大阪城天守閣，在天守閣上可以飽覽大阪風光，天守閣內亦有大阪歷史的展覽，可以了解到大阪的歷史。而大阪くらし今昔館主要是展示以前大阪人民的生活，可以了解了人們生活的轉變，從另一個方面看大阪的發展。而且館內有浴衣試穿，穿著浴衣在昔日日本大街上走動真的好像古裝片內的人物呢！由於參觀完大阪くらし今昔館才不過五時多還未到時間去看夜景，因此我們去了美國村吃著名的大阪小食燒章魚丸，真的很好吃！到了晚上先去了 Hep Five 搭乘摩天輪，再去空中庭園展望台看夜景，日本的建築物都不高的關係，在展望

台可以看到很遠的景色，真的很漂亮。看完夜景已是十時半，我們要趕及十二時回到研修中心，所以一路上都很趕急。當在十一時五十五分回到研修中心時，真的是鬆了一口氣。沒想到我們リラグループ最後一點都不輕鬆，反而是最趕最充實的一組。這次大阪戶外定向讓我有機會參觀大阪著名的景點，在玩樂中學習真的是很愉快！

Home stay

這個研修課程中最讓我期待的活動就是 Home stay，因為能與日本人住在同一屋簷下，感受他們的生活與文化，實在是十分難得的機會。我平日亦只從日本的戲劇了解日本人的生活與社會，但與日本人一同生活就能更深入去了解他們對社會的看法，而且二天的相處讓我能與 host family 有更深的交流。

這兩日一夜的 home stay 我嘗試了日本人的生活，住在和室中還浸了浴，對我而言真的很新鮮。host family 川口小姐還帶我去參觀岸和田城和參加岸和田高校的文化祭。雖然文化祭在漫畫或戲劇看過很多次，但真正的參加還是第一次，可惜時間所限未能欣賞學生的表演，不過能到感受到文化祭的氣氛也讓我很難忘了。在吃方面，川口小姐特地安排晚上製作燒章魚丸，讓我也可以參與，真的很有趣！而且自己製作的燒章魚丸也特別好吃呢！川口小姐真的很親切友善，會很耐心聆聽我的說話，真的很感謝她這兩天對我的照顧，讓我有難忘的 home stay 體驗。



這次的研修課程對我真的很難忘而且獲益良多。每天的日語對話和發表都對我的日語聽講能力有很大的提升，而且各種的活動和交流使我對日本的歷史、社會與文化有更深的了解和認識。同時，在研修中心生活的幾天我也學到了很多生活上應用到的詞語還有很多食物的名字，當然還學習到了大阪腔，令我的日語進步了不少。課堂以外，我們和其他研修中心的學生一同唱卡拉 OK 和放煙花都是很難忘的活動，很難置信這十天一眨眼便過去，真的很想重來一遍呢！

Short summary:

It is an unforgettable and amazing experience to study Japanese and learn about Japanese culture and history in the Japanese-Language Institute, Kansai through different interactive activities. The interactive activities include meeting with university students, home stay, orienteering and culture courses.

First of all, meeting with the students from Tezukayama Gakuin University let me know more about the differences in school life between Japanese students and Hong Kong students. We divided into groups to communicate with the students and we also had dinner together in the restaurant in the shopping mall nearby after the meeting. It was a wonderful night as I was delighted in chatting with the students to know more about their daily life and share our thoughts.

In my view, home stay is the most attractive activities in this programme as it provided me the opportunity to live with Japanese. My host family, Miss Kawaguchi was a very nice and talkative person and she took good care of me during the days of home stay. She took me to soak in hot springs and travel around for sightseeing. Also, she taught me to cook octopus ball at home. It is very interesting and funny experience to me as I have never tried cooking octopus ball before. Living with Japanese provided me the chance to have conversation regarding different topics ranging from Japanese society to daily life and hence I have deeper understanding towards Japan.

As for orienteering, it is an activity for us to explore Osaka and learn more about the history and development of Osaka through visiting different museums and the new and old buildings. We divided into 3 groups and I belonged to the relax group. My group visited the Tennoji Zoo, Osaka Castle, The Osaka Museum of Housing and Living, HEP FIVE Ferris Wheel and Floating Garden Observatory. Since we do not have time for sightseeing in this programme, so the orienteering is the only activity for us to travel and visit tourism spots and we were very excited about this.

Besides the Japanese language lessons, culture courses were also provided for us to learn more about the traditional Japanese activities including Aikijujutsu, rakugo and yukata. I know more about the history and importance of those traditional activities and it is interesting to try yukata, learn Aikijujutsu and watch rakugo during the courses.

After the programme, my spoken Japanese and listening skill have definitely been improved through communication in Japanese in these 10 days and I also learnt a lot of new vocabularies and Osaka dialect as well. Moreover, I made friend with the university students and the host family and I hope that we will keep in touch in the future even I returned to Kong Kong. I will never forget this fruitful and memorable study trip in this summer.

林志傑

日本語を学び始めた五年目になる今年、やっと日本へ行くチャンスがありました。わたしは日本語を学び始めてから、ドラマや歌にしか日本語を聞こえませんでした。もともと日本のアニメと歌はわたしの趣味で日本語を学ぶ原因ですが、何年も習った今になって、日本人と話し合ってみたくて日本人の友達を作りたいです。友達から中文大学の夏休みの交流プログラムを知ってすこしお金のことをちょっと心配しましたが、旅行より安いですから、すぐ参加に決めました。今でも、参加してよかったと思っています。

実はわたしは関西弁や大阪弁のことあまり知りませんでした。ただアニメやドラマで時々関西弁でしゃべるキャラクターから聞きました。標準語と違ってアクセントが変で面白いと思っています。そして、中文大学で日本人の交流生と話し合っこんな印象があります。「大阪人がとてもナイスで話しやすいです。話題がない恐れがありません。時々気長にゆっくり話してくれて助かりました。」東京人が悪くはありませんが、外国人のわたしにとっては大阪人のほうがずっと話しやすいです。ですから、わたしはプログラムのリストを見てすぐ大阪を選びました。それに、たこ焼きとお好み焼きが私の大好物です。

大阪オリエンテーリング

プログラムの四日目は大阪オリエンテーリングでした。私たち十人に大阪市へ出てさまざまなところで観光させる活動でした。途中でいろいろな写真を撮るタスクがありました。新しいものとか古いものとかさまざまなものの写真を撮らなければなりません。タスク6は特別で零事前に帰りなさいと書かれていました。そして、わたしたちは3グループに分かれました。わたしのグループは5人で、レイモンドさん、ゆかりさん、ファンさん、テリーさんとわたしが”リラックグループ”のメンバーです。ほかにはタクさんとジェイソンさんが文化グループでチェリーさんとカギさんとステファニーさんがショッピンググループでした。みんなが別々のところへ行きたかったですから3グループに分かれていました。

当日、わたしたちは朝早くセンターを出て大阪市へ出発しました。まずは天王寺動物園へ行きました。実はどのグループでも天王寺動物園へ行きました。魚住先生が知って驚きました。わたしたちは香港で動物園がないので見てみたいと言って先生が納得しました。香港では海洋公園でいろんな動物を見えますが大阪市の海遊館と天王寺動物園と比べるとぜんぜん比べになりません。天王寺動物園で見たことない動物がたくさんいました。カライオンとかタイガーとかテレビしか見えないぐらい危険な動物もいました。テリーくんがいろいろな種類の鳥を見られてずっとわくわくしていました。わたしはあとでオオカミがいることを知ってすぐ見に行きました。アニメとドラマを見すぎるかもしれません。オオカミ

がとてもかっこいいとおもっています。オオカミも何種類いましたが残念ながら全部寝ていました。オオカミだけじゃなく実は夜行性のライオンやタイガーも寝ていました。寝ている顔しか見られないってとても惜しかったです。そしてオリエンテーリングの朝はほとんど動物園の中に過ごしました。本当はそんなに時間をかかるとは思いませんでした。

街に立って昼ごはんのレストランを決めるとき、突然大阪人のおばさんがわたしたちに”May I help you?”で話しかけました。そしていろいろなレストランを紹介してくれました。私たちが日本語を学ぶために日本に来たことを知ってから日本語で話してくれました。おばさんがいなく



なりましたあと、レイモンドさんが実はおばさんが大阪弁の敬語を使っているって教えてくれました。やっぱり大阪人が親切ですね。

動物園を出て昼ごはんを食べた後、大阪城天守閣へ行きました。天守閣の最上層まで登って付近の景色を眺めました。そしてこんな思いが浮かべました。昔の人がどうやってこんな高い建物を作れるだろうって。それとも、戦争で破壊されたときは実はこんなに高くなくて、再建した後こんなに高くなったかな…とっていました。センターで先生から天守閣が二回壊されたことを聞いてこんな思いもありました。ところで、天守閣の最上層ではがきも買いました。はがきでさくらが咲いてる景色を見ました。とてもきれいだと思ってさくらが咲いてるときまだ行ってみたいです。とはいえ、さくらが咲いてるとき、香港は試験の季節ですから、大学卒業する前に無理だと思います。でも、さくらを見なかった日本の旅行なんて、ちょっと寂しいです。香港の日本語の先生からも聞きました。坂道の上で見る下の桜の海が一番きれいだと言いました。

天守閣を出るときもう3時半になりました。次の目的地の大阪くらしの今昔館が5時までだから、わたしたちは急いで4時15分に着きました。45分しかないので浴衣を着てみないとおもいましたが、今昔館でカギさんたちに会って「速いからやってみて」って言われてわたしたちは着てみました。惜しかったのは着てるとき今昔館が夜の江戸時代の大阪を再現していました。暗かったのであまり写真を撮れませんでした。浴衣をぬいたら朝になって、時機が悪かったです。

晩ごはんはアメリカ村で食べました。わたしたちは五人がいますから、みんな五分の一を食べて、いろいろなものを食べました。たこ焼きとかアイスドッグとかアイスドッグはソーセージのかわりにアイスを入れるホットドッグのことです。ギョーザの王将で中国人のウエートレスを見ました。彼女がわたしたちに会って「中国語ができますよ」と中国語でわたしたちに言いました。わたしたちはペキン語があまり上手ではないので日本語で話したいんですが、彼女がずっとわたしたちに中国語で話して中国語を言いたかったらしいでした。彼女は日本にもう六年いました。そのせいで他人と母国の中国語で話したかったかもしれません。

夜になってわたしたちは梅田へ向かいました。「パスがあるから施設が無料のうちにできるだけいろんな施設へ行きたいです。」とそう思ってわたしたちは HEP FIVE の観覧車を乗りました。やっぱりわたしは高いところが苦手なんです。観覧車の上に地面を見ると落ちたらきつとなくなると思います。でも観覧車の上で自分の IPHONE をつないで歌をプレイできます。歌を聴きながら景色を眺めて何とか落ち着きました。乗ったあとにわたしたちは梅田の空中庭園へ行きました。香港には高いビルがたくさんありますが、空中庭園ほど高いビルがありません。そして見られる夜景は香港で見られる夜景とはぜんぜん違います。香港の夜景はピカピカ光ってるビルがきれいですけど、空中庭園の夜景は果てまで見られる広い夜景です。香港はビルがたくさんあって視界に見えるものが限られています。このせいでわたしはこんなに広い夜景がとても好きでもっと見たかったんですが、もう行かないと門限を守れないんですから、短い間だけ留まりました。

帰るとき電車がある駅でカラッポになって、わたしたちしかいませんでした。しばらくとまりましたから、心配でした。もしかしてもう終着駅だからって思ってすこし不安でしたが、まだすこし待てばまだ動き始めました。駅について急いでセンターへ向かい、11時55分に帰ってぎりぎりセーフでした。最後はとても急ぎましたけれども、とても充実ですごく楽しかったです。

ホームステイ

わたしとジェイソンさんが一緒に千畑さんのうちに泊まりました。みんな一人ずつ別々のホームステイファミリーへ行く予定でしたけど、わたしの元のホームステイファミリーの瀬井さんが千畑さんとは友達ですから、一緒に遊ぶ予



定でただ夜に千畑さんの家で寝ました。一日目わたしたちは瀬井さんのうちで過ごしました。昼ごはんはみんなでたこ焼きを作って冷やし中華を食べました。実はセンターからのホームビジットの学生も一緒にいました。インド人のスモンドさんとラオス人のジンさんでした。昼ごはんのあとおかあさん(瀬井さんのこと)がすぐ晩ごはんの用意していました。ジンさんはそれを手伝ってスモンドさんが不良グループのおとうさんとかつおさんと酒を飲んだりタバコを吸ったりしました。わたしとジェイソンさんがのんびりして寝てしまったこともありました。千畑さんがいろいろな友達を呼んできてその一人のフミさんが見たことのない楽器を持ってきました。子供たちとわたしたちに試させて子供たちもきらきら星を弾きました。わたしはドレミを弾いてジェイソンさんに試させたときジェイソンさんは何の曲の楽譜も覚えていなくてわたしがクリスマスソングの歌を勧めました。弾いてみてからもう晩ごはんの時間でした。晩ごはんのとき十三人もいました。瀬井さんが自分で植えたポテトはとてもおいしかったです。料理がたくさんあって作りすぎだったと思いました。食べたあとに残った量はわたしにとっては二日も食べきれないと思いました。

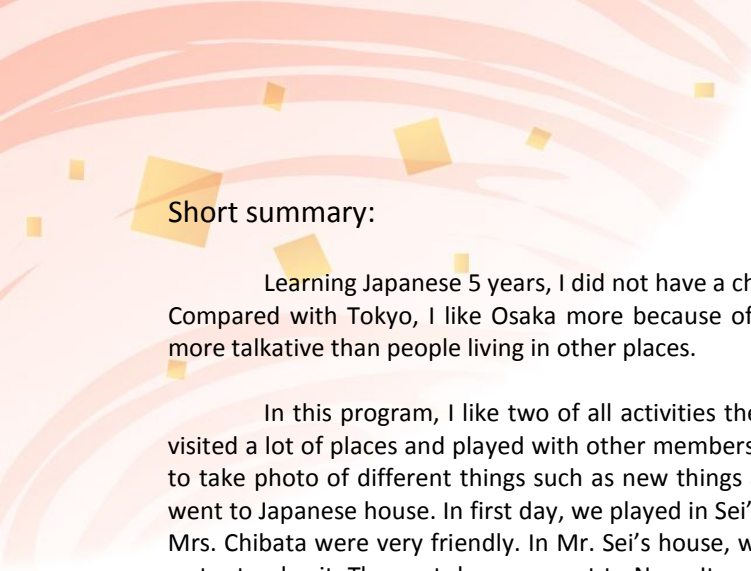
食べた後千畑さんがスモンドさんとジンさんをセンターまで送ってから、わたしたちを千畑家まで連れて行きました。お風呂のあとすぐ寝ました。お風呂に入るときお湯がとても熱かったと思いましたけど、入ったあともちよかったです。でもなんか呼吸がつかなくなってすごく心配でした。ジェイソンさんと聞いて彼もそうだったって安心でした。

二日目はわたしたちは千畑さんとお母さんとお父さんと一緒に奈良へ行きました。スモンドさんもいっしょでした。奈良の鹿は野良猫みたいにあちこちいて驚きました。そして鹿のふんもあちこちあって踏んでしまうことを恐れていました。千畑さんがわたしたちに鹿せんべいを買ってくれました。もらってすぐ鹿に囲まれて慌てていたうちにかばんに入れました。ジェイソンさんがあつという間に全部鹿たちにあげました。囲まれるとき鹿が服やズボンも噛んで怖かったです。噛んだところに唾液も残ってとても気持ち悪かったです。

昼ごはんはくら寿司で食べました。珍しくわたしたちは金賞を当たってポケモンのDVDをもらえました。わたしがポケモンが好きだと知って千畑さんがDVDをわたしに譲れました。食べた後もうセンターへ帰りました。もともとお父さんと温泉へ行く予定でしたがわたしは皮膚の病気があるので温泉はだめですから行きませんでした。千畑さんの家にお風呂に入ったときも1分しか入りませんでした。車の上でわたしは寝てしまって千畑さんとお別れするときは突然でさよならしかいえませんでした。まだ帰ってからメールを送ろうと思いました。二日間はとても短い間でしたが、日本人の生活を体験したと思いました。日本人の間の会話から文化を感じ、いろいろ教えてくださいました。

十日間の研修プログラムは本当に短かったです。センターにいるほかの学生たちは一年も泊まります。別のプログラムのスモンドさんとジンさんは六週間あります。香港に帰った今において、センターの生活はもうとても懐かしいです。みんなと一緒に遊んだり自転車でスーパーへ行ったりおいしいものを食べたり、全部すばらしい思い出です。私たち十人の中に今年卒業する人も半分ぐらいいるので、もう会う機会があまりないので、わたしにとってはこの十日間の思い出は宝です。そして日本の皆さんも香港の皆さんも連絡を失いたくないです。このプログラムで会った人々こそこのプログラムもとても重要なところだと思います。せめてわたしにとってはそうです。





Short summary:

Learning Japanese 5 years, I did not have a chance to go to Japan. This program gave me a chance to go to Japan. Compared with Tokyo, I like Osaka more because of the Kansai dialect. Also, in my mind, Osaka people are nicer and more talkative than people living in other places.

In this program, I like two of all activities the most, Osaka orienteering and home stay. In Osaka orienteering, I visited a lot of places and played with other members of the program, feeling Osaka's culture. In this activity, we needed to take photo of different things such as new things and old things in Osaka. In home stay part, this was my first time I went to Japanese house. In first day, we played in Sei's house. It was much bigger than Hong Kong's. Mr. Sei, Mrs. Sei and Mrs. Chibata were very friendly. In Mr. Sei's house, we saw a musical instrument which we had never seen. Ms Fumi let us try to play it. The next day, we went to Nara. It was surprising that deers were all over the park like stray dogs. It was terrible when deer begged food from you. They bit my clothes.

It was valuable experience. I believe that the communication and the relationship between me and the people I met in this program are the most valuable things in this program.

黃綽瑤

其實這次不是我第一次到日本，之前自己曾經兩次到過東京，不過都是遊玩性質，根本鮮有機會與當地人進行交流。後來有位友人告訴我要去過關西才算見識過真正的日本，於是一直很希望可以有機會到關西第一大都市——大阪，體驗關西獨有的文化。另外，自己修讀了四個中大日語課程後，發現在香港根本很少機會說日語，有機會的話很希望到日本將自己學過的日語運用出來。因此，真的十分感謝日本研究學系給予我這個機會參加本年度的大阪日語研修課程。

在出發前，我的心情既興奮又緊張。興奮是因為這是自己第一次到大阪，對大阪實在充滿好奇心，很想到大阪不同的名勝景點看看。再者，自己早已聽聞「大阪人非常熱情好客、大阪的食文化十分有名」，所以真的很期待這次的大阪交流，很想體驗大阪獨特的一面。緊張是因為自己的日語水平實在不高，懂得的日語詞彙並不多，很擔心自己會聽不懂老師說的話，很擔心自己能否與寄宿家庭溝通得到。我就是在這種複雜的心情下，踏上這次的大阪之旅。

日本語學習

起初以為關西國際 Centre 的日文課形式會好像中大的日文課，不斷學習大量的生字和文法。但親身上過 Centre 的日文課後，發覺其實比想像中輕鬆。上課時感覺上比較像閒談，大家都用日語跟老師表達自己的想法，互相交流。而且，老師為了遷就我們，都會用一些比較簡單淺白的詞彙和放慢說話速度，好讓我們易於理解。

另外，老師都會教一些有用的詞句和匯報技巧，讓我們可以在不同的活動和發表中運用出來，做到活學活用。值得一提的，是老師也教了一些關西弁，讓我們對這種關西獨有的方言有初步的認識。最印象深刻的一句，是「高いなあ、まけて」，發現了原來大阪人買東西習慣講價，反而東京人就不太會了。由此可見，我們可以從方言中發現當地特別的文化。

最特別的，是關西國際 Centre 的教職員也向我們介紹了動漫畫中的日語。原來說同一句話，不同性別、年齡和身份的人可以有不同的版本。不同的人物角色會使用不同的用字和用語，來表達同一個意思。這真是十分有趣呢！平時看中譯的動漫畫是不會發現這一點的，反而從日語中，便可以由那些獨特用詞看出那個角色的身份。

日本文化體驗

我們第一項體驗的文化是合氣柔術。其實之前看漫畫時已經聽過合氣道這種武術，但不是太清楚究竟是什麼東東。

我們首先做了一輪熱身運動，接著老師教了一些防身術，之後便教我們如何用木劍。老師真的很用心教我們，會逐一糾正我們每個人的動作。上了一個半小時的合氣柔術課後，雖然身體感到很疲倦，但出了一身汗後，心情反而舒暢起來。

第二項體驗的是浴衣試穿。這次是我第一次穿浴衣，之前早已覺得日本的和服和浴衣很漂亮，一直都希望可以有機會穿看看。

和服老師替我們穿上浴衣後，發覺腰帶真的綁得很緊，想大步走也不行，只能小碎步地走。接著和服老師簡單介紹了夏季和服和冬季和服的不同之處，並且告訴大家自己平時都會穿著和服，以代表自己是日本人，最後還提議我們平時可以穿一些富有香港特色的衣服，以代表香港。

本來關西國際 Centre 只安排了以上兩項文化體驗，但適逢今年關西國際 Centre 成立十五周年，所以在六月十五日舉辦了一場落語公演會，所有研修生均獲邀出席。

其實「落語」類似「棟篤笑」，落語表演者只是用扇子和手帕來演出。我真的很佩服落語表演者，因為只運用以上兩件物品和一些表情動作語調，就能演活故事中每個不同的角色。此外，落語表演者在講笑話時，即使聽到觀眾在笑，自己也要忍住不笑繼續演出。這一點真是很厲害，不過可能只是因為我笑點太低而已（笑）。

與日本大學生交流

在六月十二日，我們與帝塚山學院大學的學生進行交流。我們首先向日本的大學生作自我介紹，接著介紹了自己的大學和香港的特色，然後兩個對兩個地跟日本的大學生交談。

從交談中，得知帝塚山學院大學的學生課業不算繁忙，所以大多都有做兼職，有部分人還會每天做兼職呢！除此之外，日本的大學生也教了我們一些若者言葉，讓我們對日本年輕人的用語有初步的了解。

交流會完結後，我們和帝塚山學院大學的學生去了りんくうタウン吃晚餐。印象最深刻的，是有位行動不便的日本女學生都有跟我們一起外出吃飯。我們邊吃飯邊聊天，這位女生一直笑容可掬地跟我們談大學生空閒時會做的事、彼此喜歡的藝人和食物等等，她還叮囑我們如果去通天閣的話，女孩子最好不要在晚上去，因為會比較危險。雖然我們之前素未謀面，但大家都能夠很快打成一片，我從這位女生身上真切地體會了大阪人的熱情開朗和人情味！

大阪城市定向

在六月十三日，我們十個人分組遊大阪。一大早我們便在りんくうタウン乘火車和地鐵到動物園前車站，到達行程的第一站——天王寺動物園。

在天王寺動物園，我們看到了不同種類的動物，例如靈長類動物、貓科動物、鳥類、長頸鹿、樹熊和狼等等。途中還見到日本的小朋友，有些是在幼稚園老師陪同下參觀的，有些則是與家長一同遊覽的。值得一提的，是在遊覽動物園時見到有個小女孩摔倒在地上了，但是小女孩沒有哭，還若無其事地自己站起來。如果同樣情況發生在香港的小孩身上的話，香港小孩大概會立即放聲大哭吧！

另外，在動物園中看到了一個寫上日文漢字「留守」的牌子，再看看中文的意思——「我在室外」，發現了原來「留守」在日語中解作「外出中」，這跟中文「留守」的意思——「留下來駐守」完全不同呢！

接著我們到了通天閣，發現通天閣內經常可以看見ビリケン的身影。後來得知ビリケン原來是幸運之神，摸摸祂的腳底的話願望便會實現。有很多遊客都摸ビリケン雕像的腳底，希望自己的願望可以成真。

還有，通天閣內有很多寫上不同祝願的椅子，例如「家內安全」、「奇跡呼起」、「無病息災」和「子孫繁榮」等等，坐不同的椅子就會受到不同的祝福。不過印象最深刻的，是祈願考試合格的椅子。當我看見這張椅子後，便立即坐下。自己身為學生，這張椅子當然一定要坐啦！（笑）

中午我們在通天閣附近的新世界吃午飯，在定食店內經常可以聽見店員會跟顧客說「おおきに」（即關西弁的「ありがとう」），感覺很有趣呢！這讓我們有現在真的是身處大阪的感覺！

吃過午飯後，我們便出發到大阪城。大阪城附近有很多來自不同國家的遊客，有來自中國大陸的、有來自新加坡的、有來自歐洲的。由此可見，大阪城真是一個很著名的大阪名勝。到過大阪城天守閣後，覺得大阪城比想像中還要宏偉，但是礙於時間關係，我們沒有踏入大阪城，希望下次到大阪時可以登上大阪城看看。

然後我們到了大阪今昔館，這裡最大的特色是可以穿著浴衣暢遊江戶時代後期大阪的街道。今昔館還展示了昔日通天閣和大阪府不同地方的模型，其中一個模型是模擬昔日大阪的街道。當我們正在觀賞這個模型時，有一位大阪人告訴我們從前的男女是不會並排而行，起碼會相隔三步，而且從前的人會分三行行走。我們再仔細觀察這個模型後，發現當中的人的確如那位大阪人所說的一樣，男和女真的不會肩並肩地行走。到過今昔館後，對昔日的大阪有了初步的認識。

晚上我們便到了心齋橋和難波逛街，不過最後趕不上 Centre 最後一班穿梭巴士，於是乘了日本的的士回到 Centre。雖然 Centre 離りんくうタウン火車站不算太遠，但乘的士到 Centre 都要花上七百多円，實在有點昂貴呢！不過這也是我第一次乘搭日本的的士，也算是一種體驗呢！（笑）

Homestay

在六月十六日和六月十七日，我們每個人各自到了不同的寄宿家庭與當地人相處兩天。由於我的寄宿家庭住在大阪市，離 Centre 比較遠，所以一直擔心自己會不懂得如何回 Centre。再者，自己要跟一個陌生的日本人家庭相處，真的很擔心彼此會溝通不到。

在見過伴野媽媽後，發覺對方是個很友善的人，而且伴野媽媽也會說英語，當我真的聽不懂她的說話時，她便會用英語解釋給我聽（當然大部分時間我們都是用日語溝通居多），讓我放心了一點。

伴野媽媽知道我研修完結後不會停留大阪，於是問我有什麼地方特別想去，我告訴她前幾日已經去了天王寺動物園、通天閣和大阪城。接著伴野媽媽問我吃過章魚丸沒有，我告訴她之前因為沒有時間，所以還未吃，然後伴野媽媽便帶我到道頓堀吃章魚丸。

這兩天伴野媽媽帶我到了大阪其他著名景點如四天王寺和梅田遊覽，我們一邊遊覽的時候，伴野媽媽便會向我簡單介紹那個地方的背景和特色。

在正式出發前寫給寄宿家庭的自我介紹上提到了自己學習日語的原因，伴野媽媽很清楚記得是因為想看得懂日文歌詞，她還問了我喜歡聽哪位日本歌手的歌曲呢！除此之外，伴野媽媽知道我想學習製作大阪燒，所以特地準備了材料，並從旁指導著我。

這兩天寄宿家庭幫我實現了自己想在大阪做的事，真的十分開心！真的非常感謝他們的招待和照顧！希望我可以再學好日文，他日再到日本時能夠以流利的日語跟他們談天。

另外，在這兩天，我感受到寄宿家庭的四兄弟姊妹相處得十分融洽。雖然長子宏樹さんは高中畢業生，但是他跟年紀只有六歲的裕貴さん完全沒有代溝，彼此能夠打成一片。宏樹さん也提到他們四兄弟姊妹都沒怎麼吵架，感情非常好，身為獨生女的我對此感到蠻羨慕呢！

值得一提的，是我從前一直覺得日本男生的性格都很「大男人」，但經過了這兩天與長子宏樹さんの相處後，發現日本男生都很細心的。其實這兩天主要是伴野媽媽和宏樹さん接待我，平時外出宏樹さん都會讓我先走。有一次去完伴野家附近的公園閒逛後，回到家中宏樹さん弄了杯冰茶給我解渴；第二天早上，宏樹さん詢問了我昨晚睡得好不好。另外，宏樹さん也陪同了我回到 Centre，在火車上我因為感到疲憊而昏昏欲睡，宏樹さん可能以為我不舒服，於是問道「大丈夫ですか？」。這令我覺得日本的男生都很有紳士風度的，使我對日本男生的印象改觀了。

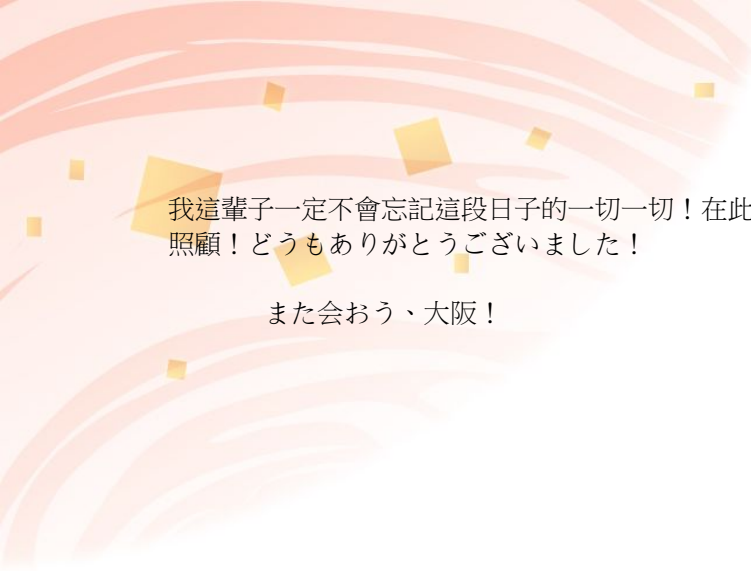
發表會

在研修的尾聲，我們每一個人都要進行個人匯報。其實之前已經做過兩次小組匯報，所以已不太害怕用日語進行短講。但由於這一次是個人匯報，所以比較擔心自己能否應付隨後的問答環節。

準備好 PowerPoint 和講稿後，便跟老師進行練習，接著下午便向關西國際 Centre 的教職員進行個人演講。到了問答環節時，被關西國際 Centre 的所長問了一道問題，最後都順利解答了。

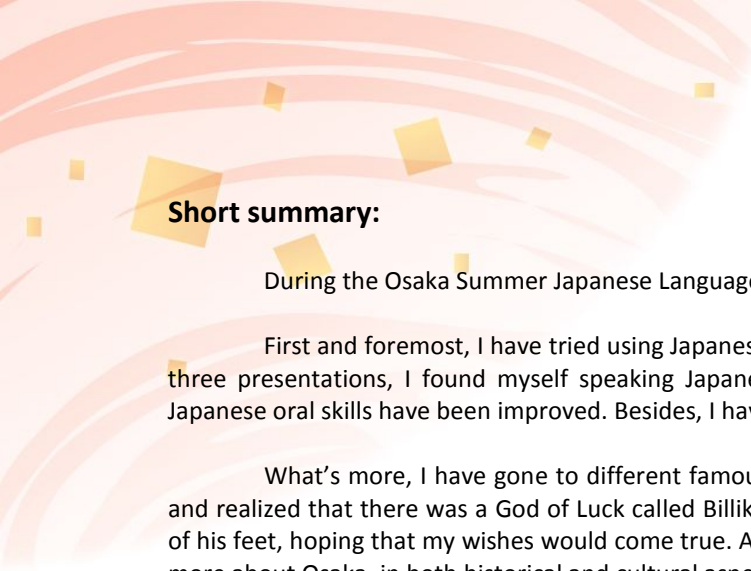
匯報完結後，大家都從所長的手中接過證書，研修課程正式劃上句號。

總結而言，這十天的體驗實在教我畢生難忘！在這十天，我第一次用日語進行匯報、第一次穿浴衣、第一次到大阪不同的名勝景點遊覽、第一次與日本人家庭一起相處……大阪帶給我很多不同的初體驗和美好回憶，



我這輩子一定不會忘記這段日子的一切一切！在此，十分感謝各位團友、關西國際 Centre 的教職員和寄宿家庭的照顧！どうもありがとうございました！

また会おう、大阪！



Short summary:

During the Osaka Summer Japanese Language Program, I have tried different kinds of things for the first time.

First and foremost, I have tried using Japanese to do the presentation. I was a bit anxious at first, but after doing three presentations, I found myself speaking Japanese more and more fluently. I am very delighted to see that my Japanese oral skills have been improved. Besides, I have also gained confidence in speaking Japanese.

What's more, I have gone to different famous Osaka tourist attractions. For instance, I have visited Tsutenkaku and realized that there was a God of Luck called Billiken closely associated with the tower. I even tried rubbing the soles of his feet, hoping that my wishes would come true. After visiting different tourist spots, I have started to know more and more about Osaka, in both historical and cultural aspects.

Last but not least, I have lived with a Japanese family for two days. During the homestay, I endeavored to use Japanese to communicate with my host family and became more and more confident in speaking Japanese. Moreover, I have experienced the lifestyle of a typical Japanese family and been treated warmly by my host family. In these two days, I have felt the friendliness and enthusiasm of Osaka people.

To sum up, I have had many spectacular experiences during the program. I would never forget all the pleasant memories in these ten days. I hope that I could go to Osaka again in the near future.

Osaka is one of the great cities in Japan. Japan always gives us a image of kind, modern and systematic. After this program, I can feel it and have a great memory. The schedule was well prepared. Japanese lessons were not the only focus. We could also enjoy and experience Japanese Culture. The most precious part is the home stay program. We can really experience how actually Japanese lives.

Life in Center

The center is in 臨空タウン which is very close to 関西国際空港. Actually, it is far from the center of Osaka and quite rural. However, it has fantastic scenery and the air is very fresh because it is close to the sea. It is famous for sunset. One day, I rode a bicycle with my friend, crossed the bridge and went to the small beach to enjoy the great scenery. The sky gradually changed from blue to purple, then to yellow and golden yellow finally. We can also see many places taking off and landing. It is really nice!

Bicycle is the transportation for us. Every day, after class, we borrowed a bicycle from the center and went outside to explore the town. We went to the supermarket every day and chose the one that we like. I am surprised that Japan does not have wet market like us in Hong Kong. All are replaced by supermarket. There are many kinds of things to buy. I can buy the delicious 弁当 from the supermarket close to the center. However, we cannot buy fresh fish in the supermarket. All are frozen. This is different from Chinese culture. We only get it when it is energetic.

The dining culture of Japan and China is really similar. Rice and noodles are our main dishes. We enjoyed Japanese food a lot. Hong Kong has a lot of Japanese restaurant. Hong Kong people like Japanese cuisine a lot. This may be the reason. However, I notice that Japanese does not consume as much fresh fruits as Hong Kong people. It seems that they treat fresh fruits as luxuries instead of daily necessities.

There is also one special feature of Japan. The way of treating rubbish is totally different from Hong Kong. In Hong Kong, we throw everything directly into the same rubbish bin at home. Bottle, cooking remains, paper and everything belong to the same rubbish bin. However, there is a specific rubbish box for each kind of rubbish like used bottles, combustible and incombustible rubbish. So, when we throw rubbish, it is very troublesome. It is especially true when we were cooking .

It is also difficult for you to find a rubbish box in the street. You may probably need to hold the rubbish for half an hour and throw it into a small rubbish bin. It is so interesting that there are much more vending machine in the street than rubbish bins. Every street has a vending machine in average.

The culture of separating rubbish is really good. Hong Kong is very small but every day there are lots of rubbish coming out from us. Without separating and recycling them properly, we may finally just be buried by rubbish. However, there are too many vending machines

Japanese Class

In CUHK, the focus of Japanese class is on Japanese grammar. The one in the center focuses on application. In Hong Kong, many students studies Japanese. Japanese is the most popular language courses in CUHK. However, only few can use Japanese well. This may be due to the lack of application.

The class in Japan emphasizes on the presentation skills using Japanese. For example, how to start a presentation and how to make a conclusion. We have made 3 presentations in Japanese. That was the first them to give a presentation in Japanese for most of us. We were all nervous and could not perform well in the first one. We spoke very slow and even stopped sometimes. For me, I felt difficult to explain what I wanted to say even I had prepared a script before. This may be because it was the first time.

Every time, teachers gave us individual advice on our presentation. We prepared our script and power point side to have a rehearsal. They are all very kind and enthusiastic at teaching us. They focused on our pronunciation, gestures

and also body languages. Teachers also recorded the last presentation and sent us. We can look at our performance and improve it. This course really helps me improve my Japanese skills in a practical way.

Osaka Orientation Training

Osaka is an important political, commercial and economical city in Japan. It is also a famous tourist site. It was the first time for me to go to Osaka. It was attractive for me.

Osaka Orientation Training is a program for us to experience Osaka. We were separated in groups and went to different places of Osaka. Osaka is similar to Hong Kong. It is full of energy. We can see many people walking and talking in streets. There are a lot of sightseeing spots. They show both the modern and traditional sides of Osaka to us.

大阪城

The 大阪城 is really great and spectacular . It was the palace of the previous Japanese king 豊臣秀吉. It shows the traditional architectural art of traditional Japan. The 鎧 and 兜 of traditional Japanese soldier is really cool . Inside the 大阪城, there are a lot of detailed information about the history of 豊臣秀吉. We have really learnt a lot about it.

We also met other Japanese visiting it . They talked with us when we were taking a rest in the kiosk. They came from Nagoya. They were surprised that we could speak Japanese with them. They are very kind and we had たこ焼き together. 大阪城 is full of trees and windy. It was really comfortable to take a rest there. Every day, many people jog around 大阪城 .

大阪今昔館

In order to learn more about the past of Japan. We have one to the 大阪今昔館. It is a museum showing the living styles of Japanese around 1500s and 1900s. When compared with Hong Kong, the characteristics of Japanese house are not tall. People live close to each other. So, relationships between neighbors are very good. They often share food and have gathering with each other. The life of Japanese was very hard in 1500s. Most were farmers and food was not enough at that time. After hard work of many Japanese for 400 years, Japan has transformed into a modern and international country. It is really fantastic.

We also wore the 浴衣. It was really comfortable to wear in summer. However, we could not enjoy well because of the time limit. There are a lot of tourists every day so each tourist can just wear it for short time. It was really a pity...

天王寺動物園

We went to the 天王寺動物園 because it is really special. Zoo is supposed to be far away from city center. However, this zoo is located in the center of 天王寺 which is a famous city in Osaka. There are many kinds of animals inside the zoo like tiger, lion, elephant, gorilla... Because it is located in the city center so it was small. It is so close that we can see trains passing us. What we worried is the safety concerns. Before there was news that lions ran out from zoo and caused harms to the public. It was really scary. However, this zoo has a good design. It has a good separation between human and animals. Many kindergarten students have fun there. Japanese life is busy and stressful. It is good to have a zoo in the city and allow us to stay close with the nature to relax. However, Hong Kong does not have any zoo.

難波and心齋橋

難波and 心齋橋 are well-known Japanese shopping tourist site. It had a lot of different kind of stores. We have bought a lot of souvenirs and eaten a lot of Osaka food like たこ焼きand お好み焼き. The most delicious food is the grilled crab. When you see a big crab , you can definitely find that shop, かに度楽.

It is similar to Mong Kok in Hong Kong. It is always crowded, full of street food and different kinds of shops. Great place!

大阪平和センター

大阪平和センター is a museum of second world war. It has a lot of pictures, historical materials describing the Second World War history. We saw many scary pictures especially those about wars with China.

There are many primary students visiting this museum. It is really a good place for people to learn from history that wars are absolutely evil. Many people lose lives and everything is severely damaged.

Train Experience in Japan

Japan is famous for is also famous for its high speed train 新幹線. However, we did not have chance to take it. However, we took subway 地下鉄 a lot . The subway network in Japan is very mature and we can take train to everywhere easily just like in Hong Kong. The main difference is that there are a lot of different train companies in Japan. Even one station, there are different companies operating it. Station with the same name but in different places such as 南海灘波、阪神灘波and JR灘波. It is really confusing. Whenever we got to the changing terminal, we stopped and thought carefully. Otherwise, we will get lost.

The train schedule in Japan is really tight. Trains don't delay or arrive earlier. They count it with seconds. However, it is really stressful. There are many websites allowing us to check the schedule. However, all the time, the schedule is really tight but the exchange station is not close. For example, from JR 灘波 to 南海灘波 is quite far. However, the schedule just allows us to have 5 minutes to buy ticket and get into the train.

In Japan, it is prohibited to talk and talk in cell phones in trains and buses. It makes a big difference when compared with Hong Kong. In Hong Kong, it is normal for us to hear loud voices from others using cellphone.

Even it makes the environment quiet and allow others to take a rest, I would not like this style. Cellphone allows us to communicate with others easily. Every day, we spend a lot of time on travelling. Travelling is the only time we can use cellphone. If it is prohibited, the meaning of the cell phone disappears. This is not user-friendly. So, we can see a lot of people sending mails and reading books in trains.

大阪企業家館

It is a museum showing the history of 106 entrepreneurs in Osaka. Osaka has long been an important commercial center in Japan. These 106 entrepreneurs contributed a lot to the success of modern Osaka. The inventor of instant noodles 安藤百福 is also from Osaka. Every one must have tried his instant noodles. I appreciate him a lot. He was in the era of post second world war. At that time, every resource was in shortage but he created instant noodles to feed the public in Japan. His creativity and courage is really great. Osaka has cultivated many successful entrepreneurs in Japan .We have learnt a lot after visiting it.

Homestay

The best way to experience Japanese culture is to stay and live with native Japanese. This program provides us a chance to do so. I had great experience of two days. I learn a lot the Japanese family living habits from morning to night.

Japanese dinning culture is very healthy. It is low in fats and sugars. Every day, they have miso soup, vegetables and rice as their main dishes. They don't have meats often. Instead, they consume a lot of fish. Japan is well known for the long life of citizens. Healthy diet may be the reason of it. On the other hand, Hong Kong people consume a lot of meats and fast food. It is rare to see a fat boy in Japan but there are many fat boys in Hong Kong.

Most Japanese live in a house. There is some living in mansion. But both of them are much bigger than the home of many Hong Kong citizens. I am surprised and feel very relaxed after entering my family's house. I imagined that I have a house similar to it in Hong Kong. It must be very great but it seems impossible...

Every day, Japanese has bath after shower. It is really comfortable. The hot water let me relax and take a rest completely. I almost slept during the bath...

Japanese home is so high-tech. Every thing is automatic! Just pressing buttons can do most of the housework. The one for preparing water for bath is great. We just need to press the buttons for the volume and temperature of the water. Water will come out automatically and stop after the pre-assigned volume. A heater keeps the temperature. So great!!! The other one is the toilet! Even toilet is so high-tech! When you open the door, the toilet cover will

automatically open. It seems the toilet says 'Halo' to you. The cleaning function is so comfortable... I like it a lot ... but there is one really strange...There is also a light in the toilet water... It shows different color when the toilet is in different modes. Scary...

My host family is very kind and caring to me. I like Japanese cuisine a lot. So, they went to the supermarket with me, chose what I want and make together. Sushi is my favorite Japanese food. However, sushi is just narrowly defined in Hong Kong. We think 握り is sushi . Actually, sushi is a group of Japanese cuisine. 握り、手巻き寿司、押し寿司 are some types of sushi . My host family introduced 押し寿司 to me . It is called 押し寿司 because the sushi is made by different layers of rice . Between layers, we can add food we like. Then we press each layer to make it rigid. It looks like a really beautiful cake. We use a knife to cut it into pieces and put it on plate. Really great!!

There is a baby in my host family. He is just 1 year old. The life of him is really relaxing. Every day, sleeping, eating and playing is his life. I like him a lot. So cute. Japanese children are more relaxing than Hong Kong children. Hong Kong children have very tight schedule like tutorial classes and extra-curricular activities. However, Japanese mothers don't squeeze their children a lot and give them freedom to choose what they want. They don't force children to enter well-known kindergarten or primary schools. This is good news to children. Japanese treasure childhood a lot. They don't want to destroy it. I appreciate a lot.


This program is meaningful, useful, interesting and unforgettable. The Japanese class gives us a great chance to practice and apply Japanese. The Japanese speaking environment is really great for studying Japanese. The school life is not just full of lessons but with a lot of culture experiencing classes. Some Japanese even have not experienced some traditional culture like wearing 浴衣. We learn Japanese culture that many people who don't know. For example, the difference of 浴衣 and 着物.

I can also how Japanese life is. In Hong Kong, we always imagine Japanese life is so fancy. They have high-tech and relaxing life and enjoyable life. Hong Kong is just a small, crowded and stressful place. The delicious food, beautiful scenery and modern life are the image of Japan. Japan is a paradise. However, after experiencing for almost two weeks, I think life in Japan is not really as fancy as we think. What we see from TV and advertisements are not the whole picture.

Their life is really busy and they have much less time to relax. Especially now, it is very difficult to get a job for every one. Most just have part-time job. Working over-time is a normal culture. That's why many people are psychologically diseased. Every one's behavior is tightly restricted like prohibition of cellphone in public transport. Japanese life is not very relaxing. They don't have so much time to relax.

In Hong Kong, we can be more relaxed. It does not mean we are not polite and don't care about others feeling. We have an agreed promise that we can relax but not harming other. We don't need to restrict our behavior so much because of others. In Hong Kong, everywhere is convenient. Within 2 hours, we can reach everywhere we want. Hong Kong is also an international city. Everything we want and need no matter where it is from is already in Hong Kong.

I am proud of being a Hong Kong citizen. The best thing is not just from foreign countries. Actually, we have already got the best thing in the world. I appreciate everything we have in Hong Kong.



Short summary:

It is an educational , interesting and unforgettable journey. The Japanese classes improve our Japanese effectively through presentation in Japanese and direct conversation with native Japanese.

Cultural exchange is a great part in it. We were given certain tasks in Osaka . We tried our best to achieve them using Japanese like asking help from others and planning a schedule in Japanese. It is a good way to practice Japanese.

The homestay is really precious and unforgettable. We experienced how Japanese live through staying 2 days in our Japanese host families. We learn Japanese from their daily lives. It is the best way of learning culture but not just from books.

Although it is just a 10-day program, we have already felt that Japan is a really modern, kind and warm country. In order to visit Japan without difficulty, studying Japanese wholeheartedly is the only way. Thank you for this unforgettable trip.

司徒凱霖

わたしは自分が大阪日本語研修プログラムを入選したことを知った時、とても嬉しかったです。わたしにとって、これは成長するのいい機会です。うちから出たり、他人の力を頼らなくても、知らない場所へ行ったりして、駄目な自分を変えられるかもしれません。その強い思いを抱いて、わたしは日本へ行きました。

香港国際空港に着いた時、最初に本当に不安でした。「ほかのクラスメイトたちと仲良くできますか。」「ちゃんと日本人と上手に話せますか。」と、たくさん不安が頭に浮かびました。それで、どんな小さなことが起こっても、わたしも慌てました。例えば、空港でノートパソコンを検査された時、ノートパソコンを取り忘れて、みんなを待たせました。自身の性格のせいで、わたしはととてもとても心配しました。

でも、この研修の十日間、わたしはやったことないことをいろいろ体験しました。新鮮なことも、わたしにとって大胆なことも、面白いことも、わたしの大切な思い出になって、わたしに力をくれました。

新鮮なこと

一番新鮮なことは、勿論英語落語、そしてホームステイのことです。

わたしは最初に落語が「スタンドアップコメディ」というパフォーマンスと似ていると思いましたが、桂かい枝さんの英語落語を見たら、全然違うものだと思います。スタンドアップコメディと比べると、落語の歴史がずっと長いです。そして、演技者の能力がもっと重要の一環です。それは、落語が座りながら色々な芸でお客さんに笑わせるから、演技者はモノマネも演技力も精通しなければならない厳しい芸術です。もうひとつは、翻訳学科の学生として、数百年の歴史を持っている落語を英語に翻訳した桂かい枝さんを感じました。

ホームステイも新鮮で興奮させることでした。日本人の家で日常生活を体験したり、日本語を練習したり、日本の社会を了解したりするのは、わたしが日本へ行く目標でした。わたしはホームステイの家族に会った前に、とても緊張しました。でも、長山さんはわたしに親切してくれて、わたしの不安が晴れました。長山さんはわたしが家族のように世話させられて、わたしは感動しました。ホームステイの日は大雨警報がありましたが、お父さんもわたしたちを淡嶋神社に連れて行ってくれました。大雨なのに、人形をたくさん供養している淡嶋神社は大変きれいだと思います。そして、日曜日にみんな一緒に日曜朝市に行きました。香港にはこんな場所がありませんので、わたしはとてもワグワグしました。お父さんはお母さんが烏賊を買っていた時、「うまいカ？」のダジャレを言いました。その後も、ダジャレをたくさん教えてくれました。ダジャレは意味深くて面白いですから、わたしは多分好きになってしまいました。ホームステイの最後、わたしは一所懸命考えたダジャレをお父さんに教えあげました。お父さんはわたしを褒めて、ダジャレを直してくれました。嬉しかったです。ちなみに、わたしのダジャレは「田尻で美味しいダージリンを飲みました」です。

落語を見たことも、ホームステイをしたことも、わたしの経験を充実させました。

わたしにとって大胆なこと

わたしはかなり怖がりますが、この研修で普段絶対しないことをしました。それは大阪オリエンテリングと最終発表会のことでした。

大阪オリエンテリングの準備をしていた時、わたしたちは先生から大阪周遊パスとガイドブックしか何ももらいませんでした。わたしたちは「オリエンテリング」の意味もわからないまま、オリエンテリングの一日を計画し始めました。しかし、ガイドブックを見ても、どこが面白いかわかりませんでした。先生に聞いたら、「自分で考えなさい」と言われました。香港の学校でこんなに自由なタスク(しかもタスクの名を乗っていましたが、実は遊覧でした)をしたことがないので、わたしはまだ慌てました。わたしはもう指示によって仕事をするのを慣れすぎましたかもしれません。わたしたちは何度も商談して、何度も計画をやり直しました、やっと時間が切った時、ギリギリ計画をできました。

オリエンテリングの時、わたしたちが行く場所は決めましたが、食事する場所は全然考えませんでした。それは本当に大変でした。数々なレストランを見て、日本人のおすすめを聞いて、最後に決められるようになりました。美味しいどてやきやたこやきやアイスドッグを食べた時は本当に幸せでした。

オリエンテリングに決めなければならないことは実はもうひとつありました。それは梅田空中庭園展望台へ行くことでした。みんなも空中庭園へ行きたかったのですが、行ったらそこは想像より遠いのが気づきました。行くなら門禁を間に合わないかもしれませんが、みんなもとても行きたかったですから、一気に行きました。空中庭園展望台の夜景は本当にロマンチックで、きれいでした。行かなければ絶対後悔しますから、行ったのはよかったです。誰もいなかった最終電車に乗った時、大変疲れていたけど、みんなも興奮しました。

わたしは最終発表会で、いつもと違う自分を見つけました。わたしは普段のんびりなタイプですから、何でもリラックスな態度でします。でも、こんな態度は発表会には相応しくありませんでした。先生に個人指導の時に、「正式な場合だから、もっと硬くしなさい」と言われました。わたしは硬い発表がしたことがありませんから、硬い日本語でするのは無理だと思いました。でも、クラスメイトたちに励ましてもらいましたから、発表会を成功するように、わたしは最後の最後まで必死にスクリップを書いていた。そして、自分を「きつとできます」と自己催眠しました。発表した時、わたしはできました。少し間違ったことがありましたが、わたしは変えた自分を褒めたいです。

しなければ後悔すること、やればできること、それは、自分を変えることで、わたしの大事な体験です。


面白いこと

研修期間には面白いこともたくさんありました。最も面白いことは合気柔術とゆかたを着る文化体験でした。

合気道も柔道も別々に聞いたことがありましたが、合気柔術を聞いたのは初めてでした。暑かったですので、わたしは元々あまり体をうごいたくなかったです。でも、やり始めれば、合気柔術が面白いと思いました。そして、ヤル気もいっぱい出ました。二時間しかない短い授業でしたが、先生たちは真面目にわたしたちに色々な技を教えて下さいました。本気を出す先生たちに負けないように、わたしも精一杯頑張りました。授業に、先生たちはゲームでわたしたちを練習させました。例えば、先生が木刀に撃たれないように、速く走って、先生の肩を触る練習がありました。わたしは最初に失敗しましたが、先生とクラスメイトたちの動作をしっかり見て、最後には走らなくてもできるようになりました。諦めなければ、わたしもほかの人ができることをできるとわかりました。

ゆかたを着るのは面白くて、楽しかったです。いつも雑誌や漫画から、ゆかたを着ているモテるキャラクターを見えます。ゆかたが本当にきれいだと思って、着るのを憧れました。研修のおかげで、その機会がやっと来ました。ゆかたを着ていた時、わたしは自分が別の人になったのを感じました。それで、わたしは勇気を出して、モテるようにポーズをやってみました。少し恥ずかしかったです、楽しかったです。それに、わたしは髪を締める時、髪が短いクラスメイトに髪飾を選んであげました。彼女がその髪飾が好きかどうか心配したが、彼女は好きなようでした。よかったです。

わたしはこの研修で、普段やる勇気がないことをいっぱい試してみました。香港に帰った時、2週間前の自分とちょっと違うのを感じました。わたしは心からたくさん人たちに感謝して、もらった勇気と力を抱いて、これからは新しい自分を迎えに行きます。



Short summary:

The report is about me, who is unconfident with myself and my personality, becoming more sure about with what I had done and I can do during the trip in Japan. Through experiencing new things, stout things and interesting things, I started to feel that there is something I can do, and can do better in the future. I had paid my effort, in the hope that I could change myself into my ideal self. Though faraway, but I believe that something have begun to happen. So I have recorded all this into my report, may all of you could witness my growth together with me.

張慧儀

當得知能成為這個研修課程的其中一員時，心情既期待又雀躍，但同時又因為擔心自己的日語水平未能應付得來而有點緊張。在六月初，我們一行十人便帶著戰戰兢兢的心情，浩浩蕩蕩地向大阪出發了。還記得首天上課時，或許是我還未習慣以日語授課的形式，能聽得懂的內容確實不多。不過，老師很貼心地以英文單詞來輔助，而我聽多了，也漸漸懂得抓住關鍵字。而且，老師還安排了大大小小的小組和個人報告，藉此訓練我們的日語會話技巧。十天下來，感覺自己的日語聽講能力一天比一天有進步了，以日語跟別人溝通的信心也增加了。除了一般課堂之外，我們還有形形色色的學習日語和日本文化的活動。

各種日語學習

我們在中大學習的日語是以關東腔為主。然而，大阪人在日常生活中，都會使用關西腔。在這之前，我對關西腔的了解可算是零認識，關西腔就像廣東話，是一種地域方言。老師為了使我們能更融入大阪生活，教曉我們不少關西腔的日常用語，例如だめ（不行！）會說成あかん、ありがとう（謝謝！）會說成おおきに等等。在眾多關西腔中，相信大家覺得最為受用的就是購物時的議價用語（高いなあ、まけて）吧！

日語也有不少擬態語，跟中文的擬聲詞相似。例如形容肚子咕嚕咕嚕響的時候、形容各種質感和心情的時候，也會用上各種的擬態語。然而，日語的擬態語比中文分得更仔細，以形容睡覺為例，擬態語也會因應對象年齡大小而有所不同，甚麼連笑聲也至少分成五種呢！

另外，我們還學了動漫中的一系列用語。以往看日本漫畫時，因為是翻譯的關係，我從來沒有發現原來人物身份不同，除了語氣，用字也會不一樣。就如流氓、武士、千金小姐、大叔……單是「我」的說法已有十多種，真的讓我大開眼界，日語真是千變萬化呢！

與大學生交流

上課的第二天，我們便要跟大阪的大學生交流，等待他們來中心的時候，我們也有點忐忑。不過大阪人的確很熱情和友善，雖然只是初次見面，但卻完全沒有拘謹的感覺，所以不消數分鐘，我們便天南地北地聊開來了。男生們就聊漫畫和動畫，女生們就聊購物和消遣。我們還互相介紹了自己的大學，分享各自的大學生活。原來日本和香港的大學生活不盡相同，例如香港的大學生大多以補習為兼職，但他們卻主要是在餐廳或便利店打工。而他們的作息時間則比香港的學生健康得多，每晚大概十二點就睡覺，即使不用上學也會八點左右就起床了。所以，當他們聽到我們說偶爾中午十二點才起床的時候，都覺得很驚訝呢！

短短兩小時的交流會結束後，大家都覺得意猶未盡，於是我們便到附近的美食廣場繼續一邊吃飯一邊聊天。因為我的日語沒有很靈光，當聽不懂或不知道該如何表達的時候，便會透過畫圖和身體語言表示，他們也會儘量以簡單的日語回應。我們就以這種溝通方式聊了很多話題，包括卡通片、偶像劇、歌手、星座、旅行、打扮等等。當他們知道我們隔天要進行大阪的城市定向時，更熱心地向我們推介購物好去處，還介紹了日本神社的御守和求籤文化。道別的時候，我們還拍了合照留念和交換聯絡方式。

大阪定向

這天我們十人分成三組到大阪進行城市定向。第一站是天王寺動物園，因為我們三個女生都不太熟路，所以一出車站便要用日語問路了，幸好最後也順利到達目的地。日本的動物園真是甚麼動物也有，企鵝、樹熊、長頸鹿、獅子、老虎……當中學到了不少動物名的日語呢！我們還看到很多幼稚園的小朋友來參觀，整個動物園都充滿了笑聲和歡樂，這在香港可是很少看得見啊。





下午我們就到了大阪生活今昔館，那裡介紹了日本江戶時代的歷史，還設有浴衣供參觀者試穿。從未穿過浴衣的我們當然迫不及待挑選自己喜歡的款式，再讓館內的職員替我們穿好。我們就這樣穿著木屐及拿著和式小包，遊走於古色古香的舊式庭園和場景之間，感覺就像回到江戶時代的生活。

然後我們就在心齋橋附近逛一下。晚上的心齋橋十分熱鬧，人潮湧湧，有著各式各樣的店鋪林立，美食應有盡有。我們身處其中，體會到日本繁華鬧市的一面。而且，當聽到在身旁擦身而過的日本人說著我剛學會的關西腔，感覺既親切又熟悉，覺得自己好像漸漸成為大阪人了呢！不過沒想到日本的俱樂部文化那麼盛行，我們走到難波時，亦被一些男和女公關搭訕，好像是想要邀請我們到俱樂部玩。我們三個女生都被這

種情景嚇到，只好裝聽不懂日語，甩甩手就急忙離開了。

文化體驗



在文化體驗方面，我們有機會學習在日本非常流行的合氣道。在開始之前要先合力鋪好軟墊，原來軟墊也有特定的排列方式呢！然後就進行熱身，由簡單的伸展到拉筋，可能大家都不常運動，光是熱身就已經讓我們感到筋疲力盡了！熱身過後，老師就教了我們一些合氣道的基本步法、踢腿、手勢，進攻和防禦方式，感覺有點像防狼術。步法看似不難，但其實做起來一點都不容易。最後，我們還學習揮木劍的技巧。雖然結束之際，大家都顯得有點疲累，但這確實是一個很難得的體驗。

且內容還要融入幽默的元素，為的是要引起台下觀眾發笑。因為整個表演是以英文和日語進行，所以大部分的內容都聽得懂，也深深了解到日本式的獨特幽默。表演的最後還播放一段影片講解學習落語的艱辛過程，真是台上一分鐘，台下十年功啊！

適逢研修中心成立十五周年，邀請了日本的落語高手來進行公演，我們亦有幸作為觀眾參與。落語就像香港版的棟篤笑，表演者只得一把扇子和一條頭巾作為工具，但卻要進行一人分飾多角的短劇，包括吃烏冬、擤鼻涕等情節。而

最後，我們亦試穿了浴衣，感受日本人的衣著文化。比起男生，女生浴衣的穿法特別複雜，先要將浴衣把自己包得緊緊的，然後緊緊地綁上腰帶，繫上美美的蝴蝶結，最後便要盤起頭髮。幸好有老師幫忙，不然單靠我們自己一定弄不好。穿好浴衣後，大家舉手投足都彷彿變成了日本人一樣，然後我們便以「正座」跪著聽老師介紹和服的文化，例如甚麼場合要穿哪一種和服、甚麼時候要穿浴衣、年齡不同穿著又有何不同等等。及後老師便讓我們到處走走拍拍照片，我才發現原來穿著浴衣走路很不方便，感覺就像中國的旗袍，因為很窄的關係，女生們只能以碎步行走，真的很難想像日本的女生是如何習慣和適應這種走路方式。

Homestay

這個研修課程最大的挑戰，就是我們分別要在日本人的家庭留宿一天，這意味著整整兩天我們都要以日語說話。還記得 homestay 的前一天晚上，大家都拿著老師給的參考資料，熟讀跟日本人相處時的基本用語，還彼此分享該如何跟日本人打開話匣子，然後隔天早上我們就懷著緊張的心情等待跟寄宿家庭見面。來接我的是一位很親切和善的媽媽，藤谷さん。在我聽不懂她說甚麼的時候，她都會耐心地、慢慢地重複她說的每一句話，直到

我明白她的意思。而我亦知道這是訓練我的會話能力的機會，所以我亦盡力以自己學過的日語詞彙跟藤谷媽媽聊天，聊香港的食物、居住環境、自己將來的工作、學習日語的困難等等。看到藤谷媽媽聽得開懷的表情，我也就放心了。

藤谷媽媽是住在一個屋內有水井，後院還種著蔬。這種房子只有在電視劇或電影處在藤谷媽媽的房子裡，我感本。藤谷媽媽是一位花道和茶她學習插花的技巧、品茶和吃天，我覺得自己更有日本文化



藤谷媽媽還帶我參觀寺廟、歷史博物館等等，還當讓我更了解日本的歷史和文帶我一起去浸溫泉，這是我頭覺得有點不好意思，不過摘下加上藤谷媽媽為了舒緩我的不安，一直向我解說溫泉水的效用，漸漸地也就覺得沒甚麼好尷尬的了。而且溫泉過後，肌膚果然滑溜了不少，難怪日本人的膚質那麼好了！藤谷媽媽知道我還未吃過大阪有名的美食——大阪燒，便帶我嚐嚐正宗的大阪燒，還親自教我如何調味才好吃呢！


建了 140 年的傳統房子裡，菜、水果和花卉，我還以為裡才會出現的佈景。當時身覺彷彿回到了古時候的日道老師，所以我亦有機會跟和菓子的步驟。經過這兩氣息呢！

了和泉市的美術館、神社、導遊替我解說展板的內容，化。除此之外，藤谷媽媽更一次體驗露天溫泉，剛開始眼鏡之後就甚麼都看不見，

課後活動

在日本學習期間，我們的課後活動跟在香港的很不一樣，例如我們會踏著自行車到超市選購便當、或是走到寧靜的海邊小屋品嚐美食、甚至是拿著水桶到附近的石灘放煙火，生活變得很輕鬆自在。而且，我們還會在中心的卡拉 OK 房內點唱大家喜愛的日語歌，透過歌詞學習日語，同時可以跟中心的其他學生閒聊交流。

雖然研修課程只有短短的十天，但當中珍貴的回憶實在太多，未能逐一細說。能在最後一個暑假到日本學習日語，並體驗日本的文化和生活，的確為我的大學生涯劃上了一個完美的句號。我深信日語學習並不會隨著大學生涯完結而結束，希望日後有機會也能到日本各地旅遊學習，以進一步增進我的日語知識。



Short summary:

Our summer exchange program to Osaka lasted for 10 days. Through this program, we experienced different activities related to Japanese study and culture and had a great time staying at Kansai International Center.

First of all, our teachers introduced the history and image of Osaka for us to get acquainted with Osaka. Moreover, they taught us some Kansai dialect and the Japanese commonly used in comics and anime, which is not common in my previous study in Japanese. Although it was hard for me to memorize all those phrases, I enjoyed the learning because they were very interesting.

Secondly, in order to enhance our oral ability, our teachers arranged us to have a chance to talk with the university students from Osaka. During the chat, we knew more about the university life in Japan and how it was different from Hong Kong students. Besides the school life, we talked about anime, part-time jobs, leisure activities, travel and so on. We even had dinner together and it was really a relaxing time for all of us. Also, we had 3 presentations in total, both group and individual. In Hong Kong, we do not always have such opportunity to practice our speaking skills and I think I have become more confident in speaking Japanese after this program.

Thirdly, we had a 1-day orienteering in Osaka. We were divided into three groups to explore both the traditional and modern architecture and discover interesting things in Osaka by ourselves. It was an exciting and challenging experience as we had to finish the tasks assigned in an unfamiliar place. We eventually managed to complete all the tasks and returned to the center safely.

Fourthly, we participated in various Japanese culture activities, which we have never tried before. For example, we had a lesson of Aikido. Aikido is an energy-demanding exercise and we got fatigue after the 2-hour lesson. Also, we watched a performance of Rakugo, which was so humorous and joyful that the audience burst into laughter all the time. In addition, we tried to wear Yukata. After wearing them on, we seemed to become Japanese. However, we have found that it is difficult to walk comfortably when we are wearing Yukata, not to mention running! But everyone enjoyed the time and we took lots of photos around the campus.

Lastly, each of us had a 2-day homestay with Japanese families respectively. My host family was Ms. Fujitani, a very kind and friendly lady. She brought me to numerous places including art museum, shrines, etc. She also invited me to take a hot spring, which I have never tried before. Ms. Fujitani is living in an old-history house and I was overwhelmed by this traditional Japanese architecture. I even learnt from Ms. Fujitani about the skills of flower arrangement and tea appreciation. It was really a valuable and unforgettable memory and I hope I could learn more about Japanese language and culture in the future.

姚禮安

從小開始我就是個很受日本文化影響的人。可是看的是翻譯好的動漫畫、聽日語流行音樂時其實不理解內容、用日本製的產品是因為品質好……從很多角度接觸日本，卻又僅此而已。今次大阪交流，終於有機會對喜歡的東西加深認識，更意想不到地，置身日本的環境下，發現和反思了香港人一些從沒關注過的陋習。

交流開始的頭一兩天，那種緊張心情至今依然猶有餘悸。想到上年暑假還在努力背五十音，今年就說要到日本交流，果然未踏足日本國土就開始碰壁。機場的廣播，基本上清晰聽到的就只有句末のください或者いたします。在安檢時工作人員問了一句「パソコンがありますか。」我還在想這樣簡單的日本句式，是時候開口說第一句日文了吧！

不過衝口而出的，卻是「いません」……

在關西國際センター的課堂最初也有點吃力，聆聽和理解老師說的話已經花盡精神，但互動的機會卻很多，我最怕要作出回應，總是有幾個想法，卻沒有一個懂得用日文表達。除了上課是這樣以外，下課後我們經常遇到其他住在センター的人，聽老師說過整個センター內只有我們不是主修日文，所以有時跟其他人閒聊幾句，也有點力有不逮的感覺。之前學日文時已經覺得聽說讀寫之中「說」是最難的部分，於是一直可避則避，但在日本根本沒有退路，唯有盡全力把想法「迫出來」，這大概是整個交流「最痛苦」的回憶。

相比之下愉快的事就易說得多，今次交流我覺得最關鍵的兩個層次是加深對日本的認識，然後感受日本文化及其背後意義。認識日本方面，我們在第三天跟帝塚山學院大學的學生作出交流。我們各自介紹了自己的大學然後分小組討論，日本學生跟香港學生的生活類似的不少，都是上課、學生活動、兼職等。但他們作息時間就比我們早很多，我們頭兩天外出的時候都覺得日本的商店很早就關門，センター附近晚上八時只餘下便利店和超級市場繼續營業，幾乎有點不習慣。我們又一起學習大阪年輕人的用語，他們指出老師教材中有些語句都已不流行，真的很惹笑。

另一方面，第二天的課我們分享了對日本的印象，不少人都是首次踏足日本，對日本的認識很大程度來自日劇和動漫畫等，但大家的想法已很一致，對日本人的待人有禮或守時等美德均表認同。討論到「想在日本做的事」，很多人也說想吃美味的日本料理，令老師哈哈大笑。帶著大家所期盼的印象，我們在第四天大阪定向活動，直接深入地觀察事實跟想像是否貼切。

我們在活動中亦要完成指定任務：尋找大阪傳統與新鮮的一面。我們乘車離開較為寧靜的りんくうタワー一，參觀了天王寺動物園、大阪城天守閣、空中庭園等，雖說景點區感覺都市化一點但還是算不上繁囂，很多人都以單車代步，路邊泊滿五顏六色的單車。想起香港的同學說買單車也要買二手車，否則泊在什麼地方都很易被偷走，香港雖說治安已很不錯，但仍不得不佩服日本。

而整日最印象深刻是中午時候，我們站在十字路口討論該走什麼方向，有位日本孀孀主動走過來幫我們，還推介了很多值得去的地方！後來我們又在兩天迷路，路過那間飯店的店主更打著傘出來領著我們走。在香港幫助其他人不算罕有，但我覺得多少還是以「不影響到自己」為大前提，這次交流得到不少日本人主動提供協助，真是既感動亦有點羞愧。

我覺得正因為每個日本人都肯踏出多一步，才建立出整個友善的環境，在這個氣氛當中的人亦被影響。在關西センター裡，正門詢問處是往返課堂與電梯大堂的必經之路，當值的職員就算在處理文件，我們經過的時候他們都會一致望過來，親切地打招呼。而センター內的其他學生就算互不認識，在電梯內、排隊買飯時、課堂以後碰到面也會互相問好，國籍完全不是界限，我覺得這是整個關西センター最成功的一點，真的營造了很適合交流的環境。十天過後，我們都認識了不少來自世界各地的人！

在交流中後期，我們進行了幾項文化體驗。第五天我們一起學習合氣道，老師教授我們幾招防禦術，隨後更有機會挑戰他們來體驗「氣」的感覺！看來合氣道較著重的是技巧，即使力氣再大亦對老師無從入手。之後我們也親身嘗試揮木劍，比看起來重得多，還要配合步法，要打中老師手上的目標實在毫不容易。

第六天我們參加了慶祝關西センター成立十五週年的英語落語公演。「落語」這個名詞對我們來說都很新穎，後來發現這個傳統活動跟香港的「棟篤笑」有點相似，但有很多地方都更為嚴謹，例如台上使用的道具就只有一把扇和一塊手帕，可是演出依然十分精彩，尤其是有一幕模仿吃鳥冬，那個神情和聲逗得台下所有人合不攏嘴！

落語公演後，我們在和室試穿了日本的傳統服飾——浴衣。大家都變了另一個樣子呢！隨後我們聽了老師的簡介後，又對日本文化加深了一點認識。

幾個文化體驗都是很有趣的經歷，也從一些細微的程序感受到日本人的認真態度。例如練習合氣道開始完結時要正座行禮、要學習落語必須經過幾年刻苦學徒生涯、和服的各種仔細分類和穿著場合。很佩服日本人，他們對自己的傳統感到自豪，抵受刻苦也堅持將文化保留和傳承下去。香港呢？保育的聲音蓋不過發展的聲音，沒完沒了的建和拆，表面進步，卻成為了沒有根的城市……

要說整個交流感受最深刻的，肯定是在日本家庭寄宿的兩天。我的寄宿家庭前田家住在熊取町，寄宿的第一天整日下著大雨，前田媽媽駕車帶我去大阪觀光大學逛逛，中午以後在家中一直待著。兩天反而令我們有更多機會靜靜地坐下聊天，起初的確有點溝通不來，我不停在筆記簿上畫圖案，但有些概念連畫畫也不知怎樣表達才好。

可是，連我自己都覺得有點氣餒著急的時候，他們依然細心寧聽。聽到他們說「ゆっくりで」，我才安心下來。調節好思路，自自然然說得愈來愈流暢。那一刻我在想一直以來日文說得不好大概是心理因素較多，全靠他們的耐性，為我加添了「錯文法都要說」的自信。前田爸爸和媽媽都對中港關係很感興趣，我數出中港兩地各種異同時介紹到粵語有九聲，他們都說「難しい！」，我說其實日本要因人施語更難，但他們似乎習慣了就不覺得辛苦呢！後來跟前田爸爸深入得談歷史和政治，上了一堂日本歷史課！當然輕鬆的話題也有不少，談衣食住行、生活瑣事、日本動漫畫……一晚所說的日文可能比前幾天的總和還要多。

另一個難忘體驗是和前田爸爸媽媽一起制作兩天的晚飯。在香港，日式食品很常見，但自己制作的機會倒是第一次有！第一晚我們一起炸天婦羅，而第二晚就是做卷き寿司。當中最難的步驟反而跟煮食無關，而是記住各種食材的名字！我跟前田媽媽說學日文的一年間主要是背好文法，所以來到日本的第一晚連餐牌也看不懂。她就教我一些日本常見食物，不過最後我還是記不到，要全部抄下筆記簿慢慢看呢！

離開寄宿家庭回到關西センター的第九天，交流活動已接近的尾聲，我們每人需要作出三分鐘短講，大家都將自己最深刻的體驗分享，而我的題目是「日本で忘れられない事」，對比起第一天連自我介紹都手忙腳亂，這次短講感覺上好得多了。不單是我，大家都比初到日本時進步了。發表會後大家接過證書，那刻真的非常感動。

記得大阪定向的那一晚登上空中庭園，起初並不覺得訝異，走了幾圈才有新的想法。我一心將日本和香港比，從這個高度向下望，也許不足以令香港人驚嘆，但站在日本人的角度，他們的房子就那麼矮小，他們的都市就那麼恬靜，沒什麼燈火通明人潮湧湧，卻有被遮蓋的地平線、潔淨的涼風，而我就只在意庭園的高度……二十年生活在同一環境下的麻目，難得地受到衝擊。整個交流的得著比我想像的超出太多，即使一點也好，我也想將日本人的親切帶回香港。希望將來的日子裡，受日本影響的不只限於服飾生活，而是更深入地，將日本人與人之間的友善也散播於香港的每一個角落。

Short summary:

In this summer I joined an exchange programme and stayed in Osaka for 10 days. Through this programme, I acquired in-depth understanding about Japanese language and culture. It was undoubtedly exciting and inspiring.

In order to understand Japan from different perspectives, a large variety of activities were held. In day 3 we met with Japanese students studying in Tezukayama Gakuin University (帝塚山学院大学), it was a valuable chance to share and discover the difference of our daily lives, at the same time make friends with students of other nationality.

In day 4 we explored Osaka through an orienting activity. I was surprised to see that Osaka is able to accommodate both modern part and traditional part. In that day I also met some nice Japanese people. They were willing to take the initiative to help tourists in need, that was a memorable experience as well.

In day 5 and day 6, we made several new attempts like learning aikido (合気道), watching rakugo (落語) and wearing yukata (ゆかた), all activities were interesting and allow us to experience traditional value and spirit in Japan.

The most memorable experience throughout these 10 days is the homestay programme in day 7 and day 8. My homestay family was very kind and they taught me many things. We went different places for sightseeing and made several meals together. It was the first time for me to make sushi and that was really exciting.

When I made my concluding presentation in day 9, I truly feel that I made an improvement. The greatest progress I made was the confidence in speaking Japanese, which I gained from talking with my homestay family. After this programme, I will keep on studying Japanese. Hope that when I go to Japan next time, I will be able to communicate with Japanese people with no difficulty!

曹子奇

這次日本之行對我來說意義重大。既是第一次出國，也是終於跟自己兌現了一直以來所期待的日本之旅。中國的歷史教科書把日本描述成一個充滿著牛鬼蛇神的可怕的地方，可是謝謝網絡，讓我知道了日本有美麗的煙花，有溫柔的女人，有謙遜的文化，有忠誠的價值。加上又是標準的日本動漫迷，所以從高中開始便想著要去日本一次，去見見這個我腦海裡頭的美麗的國度，去吃上一碗地道的熱氣騰騰的拉麵，去欣賞每年春天的盛開的櫻花，去手辦店買上一兩個喜歡的卡通形象公仔。

所以很感謝學系能為我們提供這次機會，讓我以不高的花費實現了這期待已久的夙願。這次行程共耗時九天。我在日本逗留了九天八個晚上，其中的每一秒沒一個細節都將是我的珍貴的回憶。以下是我在這十天以來的日本之行的感想。

首先作為此次行程的首要目的-日語的學習，我自認為是圓滿地完成了。六月十九號的我的日語能力想必十天以前，可以說是有了長足的進步。都說環境對於語言的學係來說是最重要的，這十天的學習又深刻印證了這個道理。之前在學校上了4個日語學習的課程，零零散散兩年時間裡頭也看了不少的日本電影跟動漫，雖然在課外之餘也並非花了多少時間來專門學習日語，但在當時也自認為日語水平在緩慢又穩定地提高著。但這一切在我到了日本以後都被顛覆了：原來我的日語水平還是相當相當的低啊。同行的同學基本上都有比我豐富的詞彙以及比我通暢的日語交流能力，唯獨我在連詢問時間的時候也支支吾吾不知所雲。一開始的時間裡頭時間真是過得相當緩慢而艱難，我希望每一個小時都能像一分鐘一樣快點流過去讓我好度過這一天回房間躲起來。

但是果真無論什麼的學習都是逼出來的，在很高強度的學習壓力下人的張力真是很大的。雖然一開始的幾天每天都得厚著臉皮向邊上的同學問一些很基本的語法或者很常見的常識性的詞彙，但是這種學習方式反而讓我覺得很開心，我像乾燥的海綿遇上大雨一樣吸收著日語，每天都學到很多詞彙，每天對於這個語言的敏感度都直線上升。我開始意識到自己之前是多麼的淺薄無知而又自大，開始認真地忘記自己學習日語的所謂的好成績，開始拋開那些浮躁和高傲，放低自己去虛心請教。我想這個心態的轉變對我來說才是最重要的。

而在九天的日語學習的過程中也有關於語言學習的相當好玩的事情。我記得是六月十三號星期三，我們的當天的課程安排是所有人走上大阪街頭，在參觀大阪著名景點的同時也留心觀察大阪街頭的有趣的日語，不論是假名還是漢字。我通過一天的觀察發現一件有趣的事情：日語當真也跟中文以及其他語言一樣，是一個隨著人們的通俗語言習慣以及社會文化而不斷改進的語種。我看到許多廣告牌上的廣告語，其中的漢字用中文理解起來也是相當輕鬆的，仿佛這就是面向中國遊客或者懂中文的日本人打的廣告一樣。舉個例子：在某個地鐵站裡頭某塊橫幅上面寫著“年中無休”四個字。這四個字在香港或者大陸的街上也是隨處可見的。並且這四個字在日語和中文裡頭的意思也幾乎一模一樣。我不知道是否在日本這幾個字也是一開始就是這樣使用的亦或是隨著漢語的融入，兩種語言相互影響相互結合而成的一種簡單易懂的表達方式呢？我傾向於去相信後者。這個疑問因出於我的懶散而一直未向大阪國際中心的老師確認，未能找到一個確切的答案，這是我的不對，我希望在以後能克服這個毛病，有問題就及時解決。

像上面所說的關於日語的學系和思考在這十天以來經常發生。我想正是這樣的，把語言徹底融入生活裡頭，把它當成一個生活的必須之物而不僅僅是一個課程來對待，才使得我的日語水平在潛移默化中完成了蛻變。雖然現在我的日語水平還是遠遠不夠，但是從無到有從零點一到一，對我而言亦是重大的一步。我開始計劃之後的自主的日語學習，開始買日語詞典來開始真正的日語學習，看動漫的時候遇上不懂的單詞也開始正兒八經地翻閱而不是隨意略過。我想這對我來說才是最重要的。

然後再來說說對於大阪這個城市的感覺。由於這次旅行九天裡頭有八天是呆在大阪的，所以大阪基本代表了日本向我印證了我對於日本的印象。一些是符合的一些還有待確認。符合的地方很多很多。我在日本的地鐵上隨處能見到翻閱著漫畫或者小本書的少年少女，中年大叔甚至是老爺爺老婆婆。他們對於漫畫的喜歡真是一種獨特的社會現象。而在這幾天里我也陸陸續續認識了幾名學生，他們有的生活節儉有錢很小心有的花錢很大沒用計劃，但他們唯獨都在漫畫書上面花錢一點不吝嗇。甚至有一個學生，我依稀記得她在快餐店做零工，每個小時九百日元（也有可能我記錯了），每個月掙來的錢基本都不會亂花，而其中一半都花在了買漫畫書上面。我之前對於日本的漫畫企業的認識僅僅停留在一個重要的國家行業上，但此次日本之行讓我意識到日本人對於漫畫的熱愛遠遠超出了我的預期。漫畫對於他們而言，不是一本小说不是一份報紙不是一個一期雜誌，漫畫的分量比他們都要重。漫畫就像是日本人的精神食糧，是一種文體是一種語言是一種生活形態，日本人生活，不管哪個方面，都離不開漫畫。我在回程中也買了一本喜歡的漫畫帶回來，一方面留作紀念，一方面也算作打發回香港的飛機上的時間。我買的是《家庭教師》的最新本。雖然之前在網上已經看過，在回去的飛機上還是慢慢翻閱著，一

個一個單詞地看，一句一句話地理解著，小小的一本漫畫書，我花了大概兩個小時的時間才看完，但是看得津津有味。

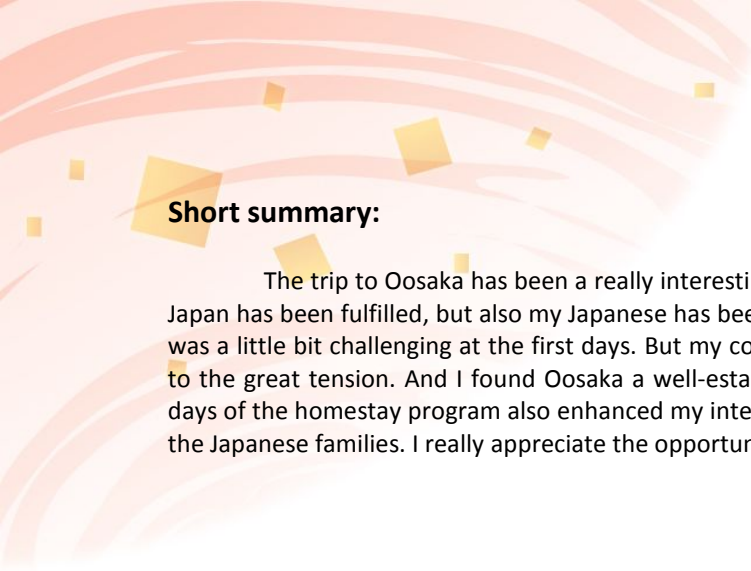
再來說說城市。日本一直以來給我一種相當快的節奏之感。看過的日本電影裡頭，他們的員工永遠在趕路或者埋頭苦幹，他們的地鐵永遠準時並且人山人海，每一個人都被生活工作壓迫的喘不過氣來。可能這種生活節奏更偏向于首都東京而我又山做主張地將之散開到了全國各地。大阪給我的印象是人們的生活節奏並沒有我想像中那麼快，街上的人們走路沒有那麼趕臉上沒有那麼多汗，地鐵也並不是像沙丁魚罐頭一樣把你擠得喘不過氣來，而且大阪的房屋都很低完全不像香港那樣抬頭望不著天四處都是摩天大樓給人們很大的壓迫感。大阪給我的感覺反而偏向于一個發達而又悠閒散漫的城市。我很喜歡這樣的感覺。也許是在香港生活了三年了（本人並不是香港本地人），平時只有在旺角這種純粹的逛街區或者很久很安靜的生活區小巷子裡頭才能見到的悠然自得的光景，在大阪的街市上隨處可見，於是從心底裡對大阪這個城市生出一絲好感來。

最後還是再說說大阪人。儘管上面已經提到很多次了但是我還是想給大阪人一個獨立的段落，就像我們在關西國際中心的日語老師所說的那樣，大阪人都是相當熱情並且健談的。我印象最深的便是 homestay 的瀨井一家和千畑一家。兩家人因為住得近而分別是我 and ila 桑的 host family 所以就乾脆合併到一起讓我跟 ila 桑在兩戶人家分別呆一天。這兩天對我來說既是好玩的又是帶著探險的感覺的，因為是頭一次探訪日本家庭，而拜訪一個不同文化中的家庭對我來說就像地心探險一樣新鮮刺激。而事實上這兩天並沒有讓我失望。頭一天裡我們在瀨井家裡時，同行的還有一個印度的小伙子以及一個老撾的姑娘，加上家庭裡的五口人以及四名朋友，總共來自五中文化的十三個人聚在一起，聊天聊的相當愉快。我們互相交流自己國家的天氣，習俗，語言以及各種文化，聊飲食習慣聊婚姻態度聊教育體制。印度的小伙子還跟 host family 的老爺爺和大叔一塊兒抽煙喝酒好不痛快。千畑女士還特意邀請了她的一位朋友過來為我們表演南美洲的一種鼓，這種鼓我從來沒有見過，它與一般的鼓不同，能敲打出很多音調出來，因此我們的樂器朋友為我們表演了許多精彩的曲目，後來老爺爺拿著吉他加入了進來與姑娘一同演奏了日本的經典曲目，那場景真是相當富有美感。

而翌日我們一起開車去奈良的一天也是相當開心的。從大阪到奈良一共一個小時的車一路上兩戶人家都是有說有笑談論很多東西而我跟 ila 桑兩個“香港人”反而顯得比較沉默。兩戶人家都相當的熱情，見識也都很廣給我們留下了很深的印象。

然後印象也很深刻的是日本人與動物的和諧的關係。因為我是在大陸長大的所以這種關係與我印象深刻。大阪似乎每家每戶都養了寵物，或者小貓或者小狗或者其他的動物。我記得在大阪街上看到一個老爺爺跟兩隻小秋田犬的組合，相當有愛。我當時問老爺爺可不可以讓我給他們拍張，老爺爺當即把小秋田犬的練辮過來對著相機。這一幕我想我會一直記得。而在每家每戶裡頭我都能見到對寵物呵護得無為不知的主人，寵物就像是家庭的一份子一樣，像是主人的孩子。這種溫馨的感覺常常融化我。在奈良的東大寺裡頭也是這樣。小鹿像是寺廟的主人一樣隨處走動跟人們索取食物。遊客們餵食拍照，毫無衝突感。我印象特別深刻的是小鹿在吃遊客喂的煎餅時會經常把頭滴下來作鞠躬狀就像日本人相互鞠躬一樣，這種帶著濃濃的日本味道的場景，讓我覺得小鹿們就這麼自然地成為著東大寺的一部份，與日本人和諧相處著，這種場景在讓我忍俊不禁的同時也深深感動著我。與之相比，大陸的現狀就顯得滑稽很多。現金在大陸仍有很多地方人們把狗當做食物，對待其他動物也毫無仁慈之心，我想對於大陸而言，進步的空間還有很大。

所以此次日本之行給我留下的全是美好的回憶。我學習到了日語，長了見識，交了朋友，更重要的，是我堅定了要再去一趟日本，去更深刻地瞭解這個國家的決心。



Short summary:

The trip to Oosaka has been a really interesting and helpful one to me. Not only my long going dream of going to Japan has been fulfilled, but also my Japanese has been greatly improved. Been my first time of my being abroad, the trip was a little bit challenging at the first days. But my communication skills in Japanese improved greatly day by day thanks to the great tension. And I found Oosaka a well-established city with charming history and passionate people. The two days of the homestay program also enhanced my interpersonal skills while broadened my international view by talking to the Japanese families. I really appreciate the opportunity and look forward to similar chances in the future.

林怡昆

私は二年半前日本語の勉強を始めました。その前には、正直、日本に対して好きでも嫌いでもありませんでした。でも、日本語の勉強に通じて、日本文化や日本人の考えなどを知りつつ、だんだん日本が好きになりました。それで、いつの間にか、日本語を上手に話せることが私の目標になりました。日本語を勉強すればするほど、日本に修学に行きたいです。遂に、今回日本研究学科に選ばれ、10日間の日本大阪の研修に参加させていただき、本当に嬉しくてたまりませんでした。

始まり

2012年6月10日、研修の初まり、わくわくしました。日本に行ったことはありましたが、日本に勉強に行くことは初めてでした。みんなはドキドキしながら、香港から日本に行く飛行機に乗りました。飛行機の中においてから、私はやっと日本へ行く実感を感じました。それは、日本語のアナウンスが流れたからです。「ああ、学んだことを実践する旅が始まったよ」と自分自身に言い聞かせました。朝8時ごろ空港に出発してから12時間ぐらい、とうとう夜の8時半ぐらい関西国際センターに着きました。もう遅かったですが、センターのスタッフさんは笑顔で私達を接待し、私達がまだ晩御飯を食べていなかったのを聞いたら、近くにあるレストランを案内してくださいました。その親切さにはすごく感心しました。

センターや授業

そして、次の日、9時に授業が始まりました。「日本に対してのイメージ」というタスクがありました。みんなが日本に行った経験や好きな日本のものや日本語を勉強するきっかけなどもっと知りました。昼御飯はセンターの食堂に済みました。そこにいくつかの国の料理もありましたが、やはりせっかく日本に行ったから、みんなも日本料理を食べたくて日本料理しか選びませんでした。午後には、来日の大学生との交流会や大阪オリエンテーリングなどのため、資料をもらったり準備したりしました。そして最後、図書館ガイドがありました。図書館には、日本や日本語や日本文化に関する本やビデオや新聞や雑誌などがたくさんあり、とても立派な図書館だと思います。

大学生との交流会

6月12日、やっと本番が来ました。大学生との交流会でした。私達は帝塚山学院大学の大学生に香港中文大学を紹介しました。パワーポイントを作ったりスクリプトを書いたりしました。交流会では、面白いことがいっぱい出ました。例えば、帝塚山学院大学の大学生は自分の日常生活を紹介してくれました。日本の大学生はみんなバイトしているそうです。香港では、大学生は大体家庭教師をやっていますけど、日本の大学生のバイトはばらばらで、ファミレスやコンビニやゲーセンなどのバイトもやっています。時々私達は彼らの言ったことが分からなかったら、彼らはきっと優しく私達がわかるように、ゆっくり話したり描いたりしてくれました。すごく助かりました。交流会が終わったら、「もし良かったら、夜ご飯を一緒に食べませんか」と勇気を出して彼らを誘ってみたら、まさか「いいですよ」と返事してくれて、とても嬉しかったです。みんなが一緒にりんくうタウンにご飯を食べに行きました。2、3時間も話し続けて、彼らの趣味や生活をもっと知りました。別れる時には本当に別れなくなかったですが、「もしまだ日本へ来たら、ぜひ連絡してね。案内するよ」、「君たちも、もし香港にきたら、教えてね。私達も案内するから」とお互いに約束しました。年の近い日本の大学生と友達ができて嬉しいです。Facebook やメルアドなども交換したから、これからも連絡し続けたいです。

大阪オリエンテーリング

6月13日は大阪オリエンテーリングでした。10人が3つのグループに分けて、大阪周遊カードを使って、大阪に遊んだり観光に行ったりいくつかのタスクを完成したりしました。毎グループも大阪にある「新しい物」、「古いもの」、「わからない漢字」を探すべきでした。我がグループは5人で、最初は大阪天王寺動物園へ行きました。香港では大きい動物園がないので、みんなも可愛い動物を見て興奮しました。昼御飯は大阪で有名な串カツやどて焼きを食べました。そして、大阪城に行きました。大阪城は大阪で有名な古いものです。二回も倒れてしまっただけで建て直したそうです。中国の宮殿と比べ、独特な美しさがあると思います。天守閣を登って大阪の景色を眺めました。次は大阪くらしの今昔館、私達は閉館前一時間到着しました。その中に、昔の道や住所や玩具などを見ました。最も面白かったのは浴衣試着でした。浴衣を着て、昔の道を歩いたり昔の部屋に座ったりして、昔の大阪人の生活をちょっと味わいました。その後で、私達はアメリカ村に行って、たこ焼きやアイスドッグを食べました。たこ焼きはみんなも食べたいと言った大阪の名物ですが、アイスドッグは店自分発明したパンにアイスクリームを挟む食品です。両方も超美味しかったです。今香港にいて、美味しい大阪の食べ物を思い出すたび、大阪に行きたい気持ちが溢れて止まりません。私達はその後、アメリカ村にある服屋や

古マンガ屋に買い物しました。最後に梅田に行って、ヘップ・ファイブを乗ったり梅田スカイビル空中庭園展望台に登ったりして、大阪の夜景を満喫しました。センターに帰る時、もう十時半過ぎで電車の中でほぼ人がいなかった。センターに着きたら、もう11時55分でギリギリサーフでした。私達5人もこの日の旅に大満足でした。

授業と合気柔術

6月14日、大阪オリエンについて発表しました。そして、アニメ・マンガの日本語を勉強しました。年齢や性別や地位やキャラクターによって、日本人は違い語尾や言葉を使っているのを知りました。コンピュータールームで言葉のゲームを遊んで面白かったです。その日に、合気柔術もやりました。合気道というのは何だか、私はまだ言葉ではっきり言えませんが、先生のもよって、合気道は体を運用するコツだそうです。みんなはストレッチをして、そして自己保護の動作を学んで、最後に正しい木剣を振り方も習いました。ほんの少しだけ稽古しましたが、日本の武道は深いなと思いました。そして、運動していい汗をいっぱいかいたから、元気になれそうです。

落語と浴衣体験

6月15日、落語を見ました。今回の落語はちょっと変わって、外国人もわかるように、英語も入れた落語でした。師匠が言った話は普通の笑い話でしたが、師匠の話し力が高くて面白かったです。しかも、師匠はうどんを食べるの物真似を教えて下さって、泣けるほど大笑いでした。落語の後は浴衣試着です。浴衣を着ることは初めてではありませんが、先生に着物の種類や各部分の名前を教えていただいて、いい勉強になりました。みんなと一緒にセンターの中で歩いたり写真をとったりして楽しかったです。

ホームステイ(1日目)

6月16日と17日はホームステイでした。私のホストファミリーは辻夫婦です。ホームステイの前に、私はちょっと心配していました。私は実は少し人見知りなんですから。でも、辻さんは優しくいつも微笑んでいるので、最初の心配は全然無駄でした。ちょっと残念だったのは、辻さんの奥様は仕事で九州に行っている最中で、私は奥様とは無縁でした。幸い辻さんは私だけではなく、センターのホームビジットの学生も二人、そしてある外国から来たネット友も招待しました。ですから、私は少しも寂しくなかったです。辻さんは私達を回転寿司屋さんに連れて行きました。その後、岸和田城や岸城神社も行きました。雨がちょっと降っていましたが、お城も神社も綺麗な模様で見えました。晩御飯は手巻き寿司を作る予定だから、辻さんは私達をスーパーへ買い物に連れて行きました。ある辻さんの友達、馬場さんも手伝いに来てくれました。6人が買い物して辻さんの家に帰って晩御飯を作り始めました。野菜を洗って、卵を焼いて、納豆を混ぜて、味噌汁を作って、非常に豊富な飯が出来上がりました。みんなが座布団の上に座って、辻さんや馬場さんの教えに従って、手巻き寿司を作って食べました。みんな一緒に御飯を作って食べた感じはとても幸せでした。そして、みんな一緒に片付けて、あっという間にすべての食器を綺麗にしました。お茶を飲んだり喋ったりして、気付いたらもう十一時半でした。馬場さんにホームビジットの二人を送って貰って、私はお風呂に入って、お布団に入って寝ました。とても賑やかで盛り上がった一日でした。

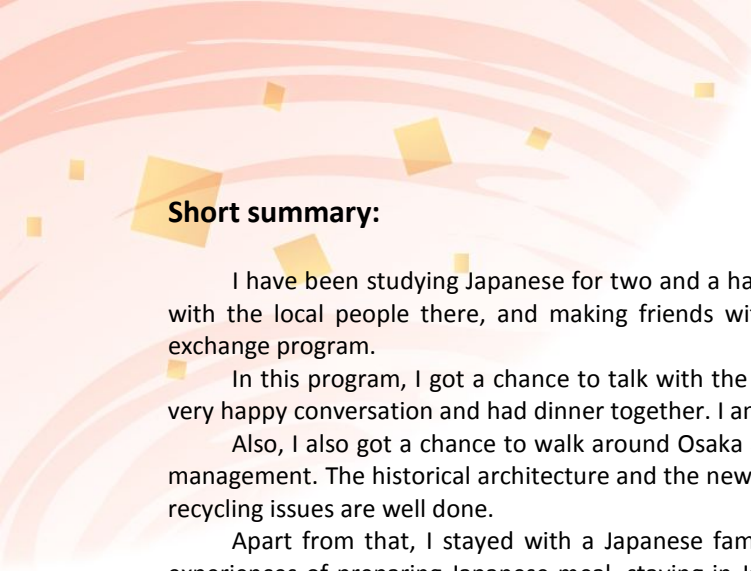
ホームステイ(2日目)

ホームステイの2日目は嵐山へ行きました。嵐山は京都の有名な観光地です。辻さんは1時間半運転して私達を嵐山へ連れて行きました。本当に大変お疲れ様でした。嵐山の景色は声も出なくなるくらい美しかったです。川もいい、山もいい、竹森もいい、全てが綺麗過ぎでした。天気も晴れていたし、気持ちいい一日でした。みんな天龍寺の庭にゆっくり歩いて、あじさいを鑑賞して、のんびりしました。そして、辻さんの友達の雄平さんにアイスもおごっていただきました。暑い夏の日には、アイスは一層美味しかったです。帰るときはまた一時間半の運転でした。センターに帰って、そろそろお別れだなと思いましたが、辻さんが「ホテルを見に行きませんか」と誘っていただきました。私達は和歌山へ行って、ホテルを見ました。香港ではホテルも見えますが、一目で二三匹しか見えませんが、今回はなんと何十匹も見えました。ものすごく美しく、びっくりしました。辻さんによると、ホテルは川がきれいな所しか見えませんが、日本もこの数十年に汚染問題が深刻化して、ホテルが見える場所がだんだんなくなりました。それを聞くと、環境問題はやはり全世界の重要な課題だなと改めて思いました。

その短い2日間でしたが、辻さんには本当にお世話になりました。いつも優しくしてくださって、私は決して辻さんのことを忘れません。必ず連絡し続けます。

終わり

6月18日は発表会でした。ホームステイや研修の振り返りをやりました。そして、発表会を行なって研修は終わりました。発表会では、みんなはこの研修に対して、感想を発表しました。副館長に修了証書を頂き、記念写真を取りました。この十日間は短いとはいえ、いろいろな勉強になることができました。私にとって、これは貴重な体験でした。私はこれからも日本語を勉強し続けたいと思います。



Short summary:

I have been studying Japanese for two and a half years. I am always hoping to stay in Japan, having a conversation with the local people there, and making friends with them. It is really my pleasure to join this short term summer exchange program.

In this program, I got a chance to talk with the university students from Tezukayama Gakuin University. We had a very happy conversation and had dinner together. I am sure I will keep contact with them in the future.

Also, I also got a chance to walk around Osaka and learn about the Japanese city. I am fascinated by the good city management. The historical architecture and the new building stay with each other very well, the road are clean, and the recycling issues are well done.

Apart from that, I stayed with a Japanese family for two days. Although that is not a long period, I gained the experiences of preparing Japanese meal, staying in Japanese house, sleeping in Japanese “fudon”. The host family was very kind to me and brought me to so many places. They brought me to Arashiyama which is a beautiful place, and they even brought me to watch glow-worm! I could never forget that.

This program really gave me a lot. I had chances to experience Japanese martial art (Aikido), watching Japanese Comedy (Rakugo), and also wearing yukata. All these increased my interest in Japanese. I would keep on learning Japanese and keep contacts with all the Japanese friends.

梁家儀

在六月十日，我到了大阪，與其餘九位同學一起研修十天。身處在香港，我們經常都有機會接觸到日本的事物。我們對日本的食物、動漫畫或是電視劇都不陌生。然而，我對於日本這個國家本身的認識只是局限於表面，之於文化、歷史和其名勝，未曾到過日本的我其實沒有太深入的了解。然而，這十日的日本文化研修卻使我有機會去親身體驗日本的文化，以及用日語去跟別人溝通，也使我有機會去認識日本的大學生和家庭。另外，當中的所見所聞的確令我受益非淺和畢生難忘。

初到日本

第一天，差不多整天時間都在飛機上，機上大多是日本人，而空姐們也是用日語作廣播。我曾嘗試了解他們的對話內容，但他們的速度實在太快，我根本難以明白內容，這令我不禁為之後的日本之旅感到擔憂。而且，我個人亦比較害羞去開口說日語，所以對著空姐們，我大多時候都只說英語。這一天，我第一次說大量日語應該是在面對日本的海關人員了，不過我回應得很不暢順。之後，我們從機場出發到中心，見識到日本非常複雜的交通系統，從買票到上車都是新奇有趣的經驗。到了中心，中心的管理人員非常詳細地講解，我也很努力去聽他的日文，那一刻，切切實實地有了日語研修要開始的想法。



日語研修

中心有很多不同國籍的人，但大家都有共通語去溝通，那就是日語！哈哈～那個畫面的確非常有趣。在中心學習日語跟在大學學習日語的氣氛很不同，在這裡聽和說的大多時候都是日語。而課堂上，日本的老師經常對我們提問，每一次的對話交流已經學到不少的日語單字，亦使用到之前學過的字詞和語句。

而當中我最感到興趣的課堂便是學動漫日語，我們用電腦學習了不少野郎、大小姐、大叔等用語，非常有趣。日本的角色設定真的很仔細，入面的對話內容在動畫中也聽過不少，可說是一聽聲音就知道是什麼角色的說話。而且，我們也有一嘗角色扮演來練習一下動漫日語，非常好玩，我最擅長的是學大小姐的笑聲：「呵呵～呵呵～呵。」

帝塚山學院大學交流會

在跟帝塚山學院大學的大學生作交流前，我們在早上先要製作介紹香港中文大學、香港的文化等的日文簡報，在日本的大學生面前以日語作發表。對此，我一直感到非常擔心。而且時間實在有限，沒法練習多幾次。因此，交流會時，我個人非常緊張呢，所以咬字和發音都非常不準確，跟練習時差得多。幸好，大家都聽得明白，也有給我們熱切的反應，亦有作出提問。為此，我也鬆了一口氣，感到很開心。



之後，跟同組的 すなおさん 聊天，他分享了大阪のおすすめ—お菓子，也請了我和同組的 Raymond 吃糖果。另外，他也說過大阪人如何交換糖果（あかめちゃん），甚至把他們當錢用一般。最後，他也分享了他的大學生活。すなおさん 非常好，遇到我們有不明白的說話，就會畫圖畫，希望我們比較容易明白他的說話內容，對此我的確非常感激。

之後，我們也跟其他的大學生談天，他們甚至跟我們到附近的車站吃晚飯。當中，我努力地用日語跟他們談談大阪和香港的賣點，他們的不同之處、漢字和興趣等，什麼都聊一下，希望盡可能跟他們說更多日語，作更多的交流。可惜的是因為自

己的日文的程度有限，不能作非常深入的溝通。不過，他們也對我非常諒解，經常鼓勵我和稱讚我，希望我多說說日語。而在手部動作，英語和畫圖下，我們的交流也算是順利吧！

那天的行程緊密，但也令我獲益良多，不但日語的說話慢慢變得流暢，而且認識到日本的朋友，是非常充實的一天！

大阪野外定向

我們的任務是在大阪市內尋找市內古老的和新穎的地方名勝，藉此更了解大阪。在活動中，我們先自行決定到那些景點，再找相關的地圖，當中有景點都是假任務之名，實自己想參觀而去的，就好像天王寺動物園。我們也去了通天閣、大阪城、今昔館、難波和梅田。當中，我們曾利用半生不熟的日語向人問路，而親切的大阪人給了我們極大的幫助。

在大阪的野外定向，的確讓我們更了解當地人的生活風貌，例如日本的環保意識，不難見到到處的回收箱，他們走路的速度非常快，繁忙的上班族，晚上的居酒屋文化，以及日本的黃色文化等（在難波，我們見到很多牛郎和陪酒女郎），這些絕對是難忘的親身經歷。



文化體驗



另外為了讓我們親身感受到日本傳統文化，中心方面也安排了不同的文化體驗活動，如試穿浴衣（ゆかた）、英語落話和合氣柔術。在中心安排我們試穿浴衣前，我們已在今昔館試穿了，但中心的更複雜點，以上兩次的經驗都加深了我對日本傳統服飾的了解。穿起浴衣和木屐後走路時只可以小步向前行，比較不方便。但浴衣的確很漂亮，穿起來也很好看，所以有多不便也沒減我的興致。

英語落話也一個新奇有趣的體驗，因為我是第一次看落語。落語應該跟香港的棟篤笑差不多吧，但有更多模仿的元素。當中，雖然有點日語聽不明白，但配合了演出者的聲音和動作模仿，很容易投入其中，笑聲不絕。



而合氣柔術亦給我們一次動動筋骨的好機會。我們跟著老師做了一系列的熱身運動，只是熱身已令我都出了一身汗，熱血沸騰了。之後我們就拿木劍做一些好像劍道的動作，在漫畫中看過不少類似的動作，做起來感覺很有趣，真的比想像的困難。之後，老師用「氣」對抗我們，我們的力量都抵不過他的「氣」，實在很強。武術果然是高深的學問。



Home stay

Home stay 令我又期待又擔心，期待切實地體驗日本文化，與日本人一起生活；擔心不能好好跟他們交流聊天，或者做了失當的事情而不自知。Home stay前一日，課堂教了一些基本的對話和需要留意的地方，那天晚上我也複習了一次，收拾簡便的行李，希望未來兩天可以順順利利。當天早早起床，懷着忐忑的心情到課室等候大地さん來接我。

大地さん（お母さん）與她的小女兒ナオちゃ

ん很早便來中心接我，我非常緊張！在課堂上學過的打招呼及基本會話在腦內湧現，十分混亂。上了車，大地さん很友善地跟我談天，也給我看お父さんの訊息，內容是說因為工作而不能一同前來而感到抱歉，當中也有很多顏文字，令我覺得お父さん一定是個友善熱情的人。不過，ナオちゃん卻非常怕生，也令我非常擔心。之後，我就跟他們到超市買菜，準備回家做たこ焼き。幸好，在車上經過一系列身體接觸，就是鬥大力遊戲後，ナオちゃん已經跟我混熟，果然跟小孩無需語言已經可以好好地交流了！



回到家，就看到お婆ちゃん了，之後大家一起做たこ焼き，這是我第一次在日本吃たこ焼き，而且是親手做，非常有趣，而且非常好吃！！當中，我跟お母さんとお婆ちゃん談了不少話題。當中，我有時候會聽不明白，他們亦十分體諒我，以極慢的語速來跟我說話；在我聽不到的時候，他們更會重覆重點字眼來讓我聽懂。我也有隨身帶著紙筆，說不出的時候就畫圖畫，希望她們明白我的說話。



當日的天氣其實不好，下了很大的雨，但他們仍然帶我到長慶寺參觀。長慶寺是一個非常漂亮的傳統寺廟，附近也有很多紫陽花。之後，お父さん and 英ちゃん也回家了，大家一起吃由お母さんとお婆ちゃん所準備的手巻き寿司！手巻き寿司是一種由自己包的壽司，涵料和份量都由自己決定，真的非常美味！！之後就跟他們一家人談了不少話題，到了十二點才睡。

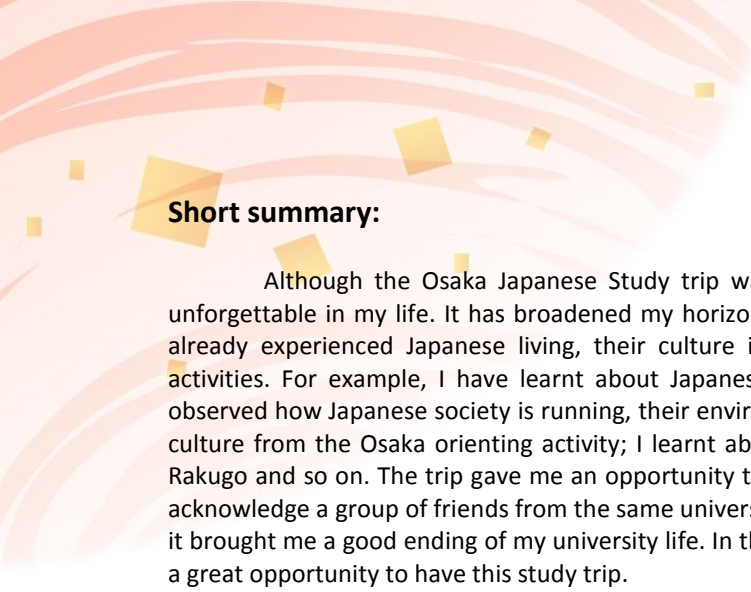
第二天，天氣轉好了！我們決定到和歌山城參觀和野餐，當中從

他們口中知道了不少日本的歷史和傳統。而且和歌山城也非常大，因此走完全城的我們都感到非常疲倦。但同時，我也很高興，因為再次感受到大地家的親切和悉心。之後，他們帶我到大阪銷量最高的市場，在那裡有各樣新鮮和便宜的蔬果，我也試吃了不少好東西。跟他們的相處雖然短暫，但卻是我畢生難忘的經驗，我也留下聯絡方法，希望日後能在他們到香港時招待他們！

後感

在短短十天的研修課程裡，日本語的能力當然說不上進步了很多，不過，我們卻實實在在的從各種活動中，體驗到日本的生活及傳統文化。例如，在 home stay 的兩天，我切實地體驗了日本人的生活；從野外定向中，我領略到日本人的社會步伐和文化；從試穿浴衣和落語等文化體驗中，我親身嘗試了日本的傳統文化。十天的見聞雖然不算深入，可是已經讓我眼界大開，引發了我對日本的文化有更大的興趣。另外，這個課程給我有機會認識到一群志同道合的朋友。從一開始互不相識，到出發後第二天已經能打成一片，我很高興能夠有這班好同學和我一起渡過這段難忘的回憶。短短十天的研修，亦為我的大學生活畫上了一個完美的句號。





Short summary:

Although the Osaka Japanese Study trip was short which only lasted for 10 days, it was so wonderful and unforgettable in my life. It has broadened my horizon. My level of Japanese has not been improved greatly, but I have already experienced Japanese living, their culture including traditional culture and the modern one from different activities. For example, I have learnt about Japanese daily lives and their family lives during the home stay; I have observed how Japanese society is running, their environmental friendly awareness and their modern culture like makeup culture from the Osaka orienting activity; I learnt about the Japanese traditional culture like wearing Yukata, watching Rakugo and so on. The trip gave me an opportunity to make friends with Japanese. Besides, it also gave me a chance to acknowledge a group of friends from the same university. I was pleased to have the trip with them. The trip was short but it brought me a good ending of my university life. In the end, I really thank the sponsor of the trip who has given me such a great opportunity to have this study trip.

相片



